

名取市歴史民俗資料館年報

—令和2年度—



2021年3月

名取市歴史民俗資料館

目次

I. 施設の目的	1
1. 施設の目的	1
II. 事業概要	1～27
1. 事業概要と利用状況	1～5
(1) 令和2年度の事業概要	1
(2) 利用状況	2
(3) 令和3年度の主な事業計画	3～5
2. 開館記念式典	6
3. 展示・公開	7～12
(1) 常設展示（①オリエンテーションルーム、②考古の展示室、③歴史民俗の展示室）	7～11
(2) 企画展示（①第1回企画展示、②第2回企画展示、③第3回企画展示）	11～12
4. 学習・交流活動	13～21
(1) 歴史スポット巡り（①第1回、②第2回、第3回）	13～15
(2) 資料館まつり	15～17
(3) 歴史講座（①第1回、②第2回）	17～18
(4) 講演会	18
(5) 各種案内・出前講座・展示解説	19～21
5. 体験学習活動	21～23
(1) 体験イベント	21～23
6. 調査・研究活動	23～24
7. 資料管理・利用	24～26
(1) 収蔵資料利用	24
(2) 資料調査	25
(3) 寄贈・寄託	25
(4) 収蔵資料整理	25
(5) 燻蒸・調査	26
8. 刊行物	27
9. ボランティア活動	27
III. 資料	28～32
1. 施設概要	28～29
2. 組織・運営	29
3. 予算	29
4. 条例・規則	30～32
5. 沿革	32
IV. その他	33～44
1. 資料紹介	33～34

I. 施設の目的

1. 施設の目的

名取市歴史民俗資料館は、約2万年にわたる長い歴史の中で蓄積され、大切に受け継がれてきた歴史文化の保存・活用拠点として整備されました。それらは郷土の歴史や成り立ち、先人たちの営みを知る上で欠かすことのできない共有の財産であり、永く後世へ受け継いでいく必要があります。当館では、この大きな目標の達成に向けて、以下の様な目的を持った活動を行っていきます。

- 1) 展示や歴史的な体験活動を通して、名取の歴史文化に触れる機会を提供します。
- 2) (郷土の歴史文化に関わる) 歴史的な体験などを通じて、歴史文化への興味関心を高めます。
- 3) 歴史文化やふるさとへの関心を高め、歴史文化の保存・活用を図ります。

II. 事業概要

1. 事業概要と利用状況

(1) 令和2年度の事業概要

令和2年度事業については、新型コロナウイルス感染症の影響により、開館に約1ヶ月間の遅れが生じ、その後も通常の事業実施が難しい状況がしばらく続きました。そのため当初の計画とは異なり、その時の状況に応じた事業実施が必要となり、変更や中止・延期となった事業もありました。

そうした状況ではありましたが、令和2年5月31日(日)にグランドオープンの記念式典が執り行われ、無事に開館の日を迎えることができました。開館後に実施した主な事業・活動について以下に概要をまとめました。

展示・公開事業としては、開館後しばらくの間は観覧人数や設備の消毒などに留意しながら、「考古展示室」と「歴史・民俗の展示室」の常設展とオープニング企画展示を行いました。不特定多数の人が手を触れる恐れがある情報検索ブースの稼働は中止としました。企画展示は、今年度のメインテーマを古墳文化に関するものとし、オープニング企画展を含め計3回実施しました。テーマに応じて、それぞれ80日前後の期間で開催しました。

学習・交流事業は、主に3つの事業を実施しました。1つ目は「歴史スポットめぐり」で、当館のフィールド施設と捉えている市内の歴史スポットを、職員が案内しながらバスでめぐり理解・関心を高めるものです。2つ目は、11月に実施した年間最大のイベント「資料館まつり」で、毎年秋頃に開催予定です。歴史文化に因んだ催しや活動、活動成果を披露する機会提供の場として継続的に開催していくものです。3つ目は各種講座・講演会の事業で、名取の歴史講座の開催(2回)や、講演会(1回)、出前講座への講師派遣などを実施しました。企画展示の関連事業として実施したものや、市内小学生の資料館訪問学習などコロナの影響で実施できなかった事業もあります。

体験学習事業としては、まが玉づくり体験を中心に、ミニ縄文土器づくり体験をはじめ、しおりづくり、缶バッジ作成体験などのメニューを実施しました。事前予約により実施したものと資料館まつりで随時実施したもの、依頼を受けて個別に実施したものが計12回実施しています。

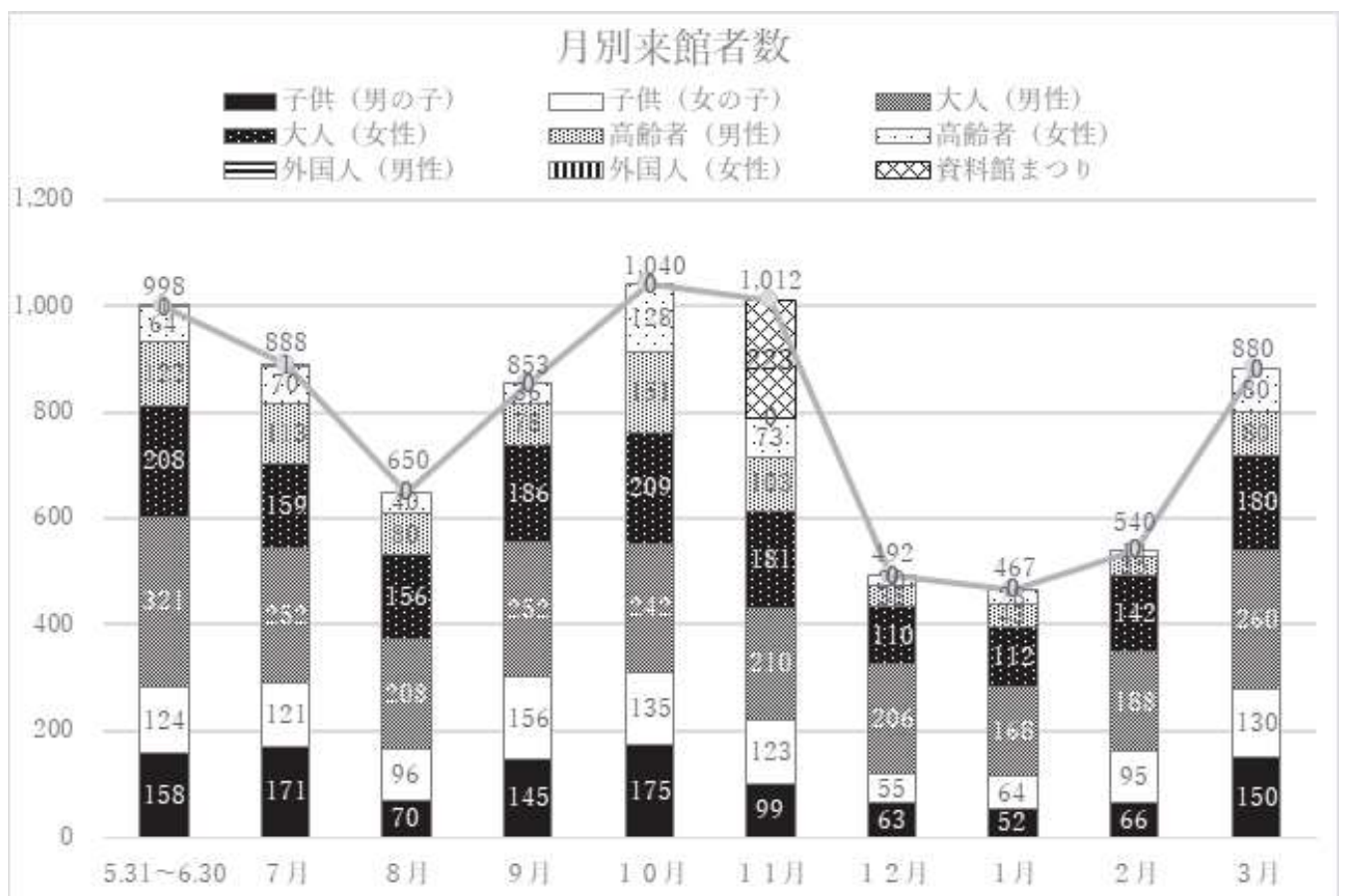
調査研究事業は、体験学習メニューの充実を図るための検討や、まだ情報が少なく実態が判らない市内の須恵器窯跡について、収蔵資料や新発見の資料などを整理して公開・活用するもので、成果はIV章その他の頁に掲載しています。

(2) 利用状況

令和2年5月31日（日）のグランドオープン以降、市民をはじめとする多くの方々の利用があり、令和3年2月末現在の総来館者数は延べ6,940人となっており、3月末日では7,820人の来館が想定されます。

月	子供 (男子)	子供 (女子)	大人 (男性)	大人 (女性)	高齢者 (男性)	高齢者 (女性)	外国人 (男性)	外国人 (女性)	資料館 まつり	来館者	月平均	日数	開館日
5.31～	158	124	321	208	122	64	1	0		998	36名	31	28
6.30													
7月	171	121	252	159	113	70	1	1		888	33名	31	27
8月	70	96	208	156	80	40	0	0		650	25名	31	26
9月	145	156	252	186	78	36	0	0		853	33名	30	26
10月	175	135	242	209	151	128	0	0		1,040	39名	31	27
11月	99	123	210	181	103	73	0	0	223	1,012	40名	30	25
12月	63	55	206	110	38	20	0	0		492	21名	31	24
1月	52	64	168	112	43	28	0	0		467	19名	31	24
2月	66	95	188	142	35	14	0	0		540	25名	28	22
3月	150	130	260	180	80	80	0	0		880	33名	31	26
累計	1,149	1,099	2,307	1,643	843	553	2	1	223	7,820	30名	305	255

※3月の来館者数は、3月1日～3月12日までの来館者数平均から想定。



(3) 令和3年度の主な事業計画

令和3年度に実施予定の、資料館が主催する主なソフト事業について概略を以下に記載しています。ここで記載した事業の内容や、実施時期ほかについては、あくまでも現段階での想定計画であるため、今後の状況などにより、大きく変更になることや実施回数なども増減することが十分想定されますのでご注意ください。

①展示・公開事業

1) 常設展示

観覧者により判りやすい内容になるよう、補助パネルや解説シート設置などの工夫や、季節毎の室内装飾、代替品との展示替えなども検討しながら実施予定です。

2) 企画展示

令和3年度のメインテーマとした「熊野信仰」についての展示を2回、その他の個別テーマに関する展示を1回、R2年度の発掘調査成果展示を1回の計4回の企画展の開催を想定しています。内容や期間、回数なども含め状況に応じて柔軟に変更して行うことを基本としており、下記はあくまでも仮の予定のため変更・中止になる場合もあります。

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| 第4回企画展「名取熊野三社の歴史文化遺産①」 | 4月10日(土)～6月27日(日):67日間 |
| 第5回企画展「経の塚古墳と出土品」 | 7月11日(日)～9月26日(日):66日間 |
| 第6回企画展「名取熊野三社の歴史文化遺産②」 | 10月10日(日)～12月26日(日):67日間 |
| 第7回企画展「令和2年度発掘調査報告展」 | R4年1月9日(日)～3月27日(日):67日間 |

②学習・交流事業

1) 歴史スポットめぐり

昨年度実施したメジャーコース①・②に加え、新たに「熊野めぐりコース」と「古墳めぐりコース」の2コースの追加を検討し、計4回(各回土・日の2日間実施)の開催を計画しています。

- ア: 第1回歴史スポットめぐり(5月頃):メジャーコース+熊野めぐりコース
- イ: 第2回歴史スポットめぐり(6月頃):メジャーコース+古墳めぐりコース
- ウ: 第3回歴史スポットめぐり(9月頃):メジャーコース+熊野めぐりコース
- エ: 第4回歴史スポットめぐり(10月頃):メジャーコース+古墳めぐりコース

2) 第2回 資料館まつり

資料館最大のイベントである「資料館まつり」を11月頃に開催する予定です。第1回目の内容も見直しや充実も検討しながら実施する予定です。開催日については、昨年は市の「秋まつり」の中止などもあり、11月15日(日)に実施しましたが、「秋まつり」を含め他の行事の日程なども勘案しながら実施する予定です。各イベント等の実施場所は、昨年同様に下記のア～オを基本に、内容の変更や充実を図りながらの実施を検討しています。

- ア: 屋外メインステージ(民俗芸能披露2件、昔ばなし語り、吹奏楽演奏ほか)
- イ: 展示室(展示案内・解説)
- ウ: 体験学習室(まが玉づくり、しおりづくり、缶バッジづくり)
- エ: 古墳ふれあいひろば(はに輪投げ)

オ：物販（ドリンク、雑貨など）

※ カッコ内は第1回目の主な実施内容。

3) 歴史講座・講演会

ア：歴史講座

名取の歴史や民俗、自然などを学ぶ講座を4回開催する予定です。実施時期や内容については未確定ですが、企画展示の関連イベントとして、展示内容に関わる内容で実施する場合があります。

第1回 歴史講座（4月頃）13:30～15:00 ※第4回 企画展示関連イベント

第2回 歴史講座（7月頃）13:30～15:00 ※第5回 企画展示関連イベント

第3回 歴史講座（10月頃）13:30～15:00 ※第6回 企画展示関連イベント

第4回 歴史講座（1月頃）13:30～15:00 ※第7回 企画展示関連イベント

イ：講演会

開館1周年記念 講演会

令和3年度のメインテーマである「熊野信仰」に関する講演会を、開館1周年にあたる5月から6月頃に、外部講師を招いて実施する事を検討しています。

ウ：市内小学6年生 訪問学習

本格的に歴史の学習がはじまる小学6年生を対象に、市内の各小学校と日程や実施内容・方法について相談しながら資料館での訪問学習を行い、郷土の歴史や先人たちの暮らしについて学ぶ機会を提供します。具体的には、学習ノートなどを活用した展示室での学習活動や、まが玉づくり体験などの体験活動などを組み合わせたものを計画していますが、各学校などの要望に合わせてながら柔軟に実施していく予定です。また、スムーズな訪問学習の実施のため、移動手段の確保なども検討しています。

エ：各種案内・出前講座

昨年同様に、随時の依頼によるものや、市の出前講座への申し込みによる講師派遣などを含め、資料館の展示解説や、市の主な文化財、歴史スポットなどの案内・説明など、できるだけニーズに合わせてながら柔軟に対応していく予定です。できるだけ早めにご相談ください。

4) ボランティア育成講座

当館には約20名のボランティアさんが活動しています。資料館の事業や活動を円滑に実施するとともに、資料館とボランティアの皆さんが相互に連携を図りながら、より充実した活動となり、利用者の満足度や利便性の向上につながるよう、今後も新規募集や研修などを行いながら活動していく予定です。

ア：ボランティア養成講座

新規のボランティアさんを対象として、展示解説や体験学習のサポートのための研修会実施を年5回程度予定しています。また、既に活動されているボランティアさんのスキルアップの講座も兼ねています。この他にも、資料館主催の各種講座やイベントなどにも研修も兼ねて参加頂きながらの活動を予定しています。

イ：ボランティア移動研修

令和2年度はコロナウイルスの関係で実施できませんでしたが、県内の類似資料館などを視察する研修の開催も計画しています。

③体験学習事業

魅力ある体験メニューを用意し、来館者の体験活動のサポートなどを行うものです。

1) 体験学習・体験イベント

令和2年度に実施した体験学習メニューとしては以下のものがあり、令和3年度以降も実施メニューを随時増やし、内容の充実も図りながらの実施を予定しています。

ア：まが玉づくり・・・令和2年度は体験イベント時に実施しましたが、毎週土・日・祝日など定期的な実施も検討していきます。イベント時には管玉づくりも取り入れを検討。

イ：缶バッジづくり・・・大きなイベント時などに実施を想定します。

ウ：しおりづくり・・・随時の体験でも実施内容拓本との組み合わせも検討します。

エ：ミニ縄文土器づくり・・・乾燥や焼き上げなどを外部施設に協力頂きながら実施しており、実施可能回数もある程度限定されるため、体験イベントとしての実施を想定します。

2) 実施検討メニュー

今後も体験学習メニュー数を増やしたり、内容のブラッシュアップを図ったりしながら実施していく予定です。下記のもの以外にも、柔軟に良いものを取り入れながら実施していきます。

ア：タデアイ生葉染めによるグッズづくり

イ：紙漉きによるハガキづくり

ウ：管玉づくり

エ：石器の製作や使用体験

オ：拓本体験（土器 or 石碑など）

カ：火起こし体験

④調査研究事業

当資料館では、歴史や考古、民俗などをはじめとする多様な歴史文化の保存・活用を行っています。特に本市に関わるものについての調査・研究を進めていく予定です。資料館が実施する学習交流や体験活動などを通じて、多くの方々から寄せられる情報なども参考にしながら実施し、その成果の蓄積・継承や活用を行っていきます。主な対象については、以下のようなものが想定されますが、具体的な内容については柔軟に行っていく予定です。

ア：名取の歴史・民俗に関する調査研究

イ：体験メニューの開発に関する調査研究

ウ：資料館利用学習のプログラムに関する調査研究

エ：ボランティアスタッフとの協働調査研究

オ：上記の研究成果をまとめた報告書の刊行

2. 開館記念式典

令和2年5月31日の日曜日、増田一丁目の旧図書館の場所に、今後の名取市の歴史文化の保存・活用を担う拠点施設として「名取市歴史民俗資料館」がグランドオープンしました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当初の開館予定から約1カ月延期にはなりましたが、無事に開館の日を迎える事ができました。

【資料館の基本情報】

1. 開館日：令和2年5月31日（日）
2. 場所：名取市増田一丁目7-37
3. 開館時間：9時～17時
4. 休館日
月曜日（月曜日が休日・祝日の場合、その翌平日）
年末年始（12月29日～1月3日）
5. 入館料：無料
6. 駐車場：普通車22台



資料館がグランドオープンした令和2年5月31日の当日は、朝から晴天に恵まれ、午前10時から、古墳ふれあいひろば前において開館記念式典が執り行われました。式典には、宮城県議会議員や名取市議会議員の方々、名取市校長会や名取市文化財保護審議会の会長さん、増田地区の行政区長さんや町内会長さん等の多くの方々のご臨席を賜り、山田市長の式辞、瀧澤教育長による資料館の概要説明などの後にテープカットが行われ、念願のグランドオープンを迎えました。



その後、式典出席者による展示室内の観覧などが行われ、午後1時から2棟の展示室の一般観覧がスタートしました。観覧にあたっては、新型コロナウイルス感染拡大防止を図るために、マスク着用や手指の消毒、定期的な換気、入館制限などを行いながらの実施となりましたが、当日は延べ74名の方々の来館があり、職員の説明等を聞きながら、映像や写真資料、展示品などを見て頂きました。また、当日の式典や展示室の様子などは、新聞記事などに掲載されました。



3. 展示・公開

(1) 常設展示

約2万年前頃から受け継がれてきた多くの歴史文化の中から、特に名取市の歴史文化の特徴や魅力を物語る6つのテーマに絞って、写真・映像・解説などにより分かりやすく紹介しています。

展示室は「考古の展示室」と「歴史・民俗の展示室」の2つの展示室があります。

① オリエンテーションルーム

常設展示はテーマに絞った展示になっていることから、市の歴史文化の概要や大きな流れを把握しにくい恐れがあります。そこで入口脇にあるオリエンテーションルームでは、60インチのモニターの2つの映像を通じて、予め本市の歴史の流れや概要を見た上で常設展示などをご覧頂くことを意図したものです。2つの映像は、通史を紹介する「なとり歴史の旅」と市内の主な歴史スポットを上空から紹介する「なとりの歴史 空中散歩」という10分程度のもので、ボタンで選択して見ることができます。



② 考古の展示室

雷神山古墳をはじめとする、旧石器時代から平安時代頃にかけての発掘調査の出土品や資料を中心に紹介しています。

入口正面には、導入部として自然環境と人々の暮らしの拡がりを見ることが出来る「考古資料からみた名取」のコーナーがあります。名取市の地形模型に現在の市の様子や、過去の海岸線と人々の暮らしの拡がりや、大きく4つの時期に分けて、プロジェクションマッピングにより、海岸線などをはじめとする自然環境の変化と、それに応じて丘陵部から平野部へと拡大していく生活区域の変遷をイメージと音声で理解することができます。



展示エリアは、テーマ毎に大きく3つのゾーンに分かれています。

【テーマ1：愛島・高館の森や海辺の丘と縄文の暮らし】

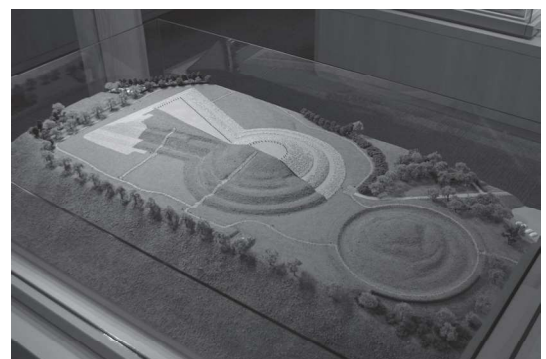
市西部の丘陵や「名取が丘」がある丘陵で展開された、市の歴史の原点とも言える旧石器時代や縄文時代の暮らしに焦点をあてたものです。自然との共生の中で、生活の舞台として選ばれたことを物語る文化財を展示しています。コーナーの最後には、考古展示室が対象とする時代の年表があります。



●主な内容：野田山遺跡、泉遺跡、今熊野遺跡、前野田東遺跡、宇賀崎貝塚、金剛寺貝塚

【テーマ2：雷神山古墳と花開いた古墳文化】

古墳文化繁栄のシンボルであり、当時は東北の中心であったことを物語る「雷神山古墳」のほか、多数の古墳、他の地域との交流を伝える出土品に焦点をあてたものです。また、稲作をはじめとする大陸文化の伝来により、その繁栄の基礎がつけられた弥生時代の文化財も含め展示しています。



●主な内容：十三塚遺跡、原遺跡、今熊野遺跡、雷神山古墳、飯野坂古墳群、下増田飯塚古墳群

【テーマ3：名取郡の成立と実方中将】

8世紀（700年代）の初め頃の「名取郡」成立により、歴史の舞台に「名取」が登場します。名取郡には当時の陸奥国府が置かれるなど、それ以前と同様に政治・文化の中心地でした。丘陵部には多賀城へと続く東山道が整備され、平安時代の著名な歌人「藤原実方」の旧跡をはじめ、様々な暮らしの痕跡が残されており、平野部でも大きな集落が営まれました。



●主な内容：清水遺跡、笠島廃寺跡、藤原実方の墓、道祖神社、前野田東遺跡、熊野堂横穴墓群

③歴史・民俗の展示室

熊野三社をはじめとする、平安時代以降の歴史や暮らしに関する資料を紹介しています。展示エリアは、テーマ毎に大きく3つのゾーンに分かれています。

【テーマ4：熊野三社と名取の老女】

平安後期に成立したと伝わる熊野三社は、全国3,000か所以上ある熊野ゆかりの社寺の中で、紀州熊野三山と同じく、本宮・新宮・那智の3社を個別に祀り、位置関係なども似せるなど、全国的にも珍しい特徴を有し、多くの関連する文化財が伝えられています。その成立に深く関わる「名取老女」の伝承や旧跡にも焦点をあてた展示です。

モニターでは「見てみよう！熊野三社の伝説と芸能」があり、タッチパネルで見たい神楽などの映像を見ることができます。その前面には昭和50年頃の熊野三社付近の様子を再現した模型で位置関係や立地環境が分かります。



●主な内容：熊野本宮社、熊野神（新宮社）、熊野那智神社、熊野新宮寺、大門山遺跡

【テーマ5：増田宿と洞口家・旧中沢家住宅】

仙台藩に属した江戸時代には、市中央の奥州街道沿いに増田宿の「まち」が、平野部には洞口家住宅などの水田・堀・いぐねに象徴される田園集落、西部の丘陵部や谷筋などには、鎮守・村堂・山林・池・墓地などで構成される、暮らしの原風景ともいべき素朴な集落が営まれました。それぞれの環境に応じて展開した暮らしに焦点をあてた展示です。敷地も含めた洞口家住宅の模型や、迫力ある釜神さまも展示されています。



●主な内容：館腰神社、洞口家住宅、衣笠の松、鶴見屋土蔵、旧中沢家住宅

【テーマ6：貞山運河と関上】

名取川河口の港まち関上は、仙台と外洋をつなぐ物資運搬や漁業・農業を生業とし、江戸時代には藩直轄の港として、「貞山運河」や名取川を通じた城下への材木・米の運搬などで賑わいました。明治には、増田・関上の2つの「まち」を結ぶ新道が、大正末～昭和初期には、増東軌道が整備されました。この様な、海岸文化の拠点としての特色に焦点をあてた展示です。コーナー内には、歴史・民俗の展示室の展示に関わる年表やマップもあります。



●主な内容：貞山運河、増東軌道、関上土手の松並、関上大漁唄込み踊、日和山、津波碑

【名取のくらしの道具】

常設展示の6つのテーマのほか、弥生時代から人々の暮らしを支えてきた米作りをはじめ、かつては名取でも行われていた養蚕、宿場町などで使われていたと思われる生活の道具などを展示したコーナーを設けています。



(2) 企画展示

①第1回企画展示「なとりの王が教える 名取の古墳」

○展示内容：古墳文化が花開いた名取の古墳時代における、古墳づくりや生活の変化、名取の古墳の特色について紹介しました。市内には雷神山古墳をはじめとする多数の古墳が造られ、市の歴史の中でも大きな特色の1つになっています。古墳の形態や規模、大きなお墓づくりが行われた時代の生活の移り変わりなどについて、写真・解説パネル、それぞれの時期の特徴的な出土品の実物展示により紹介し、名取の古墳の特色についても紹介しました。

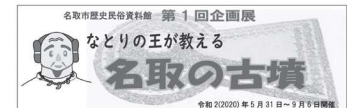
○会期：令和2年5月31日（日）～9月6日（日）

○開催日数：89日間

○入館者数：2,702人

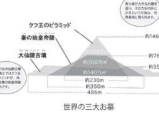
○会場：歴史・民俗の展示室 企画展示コーナー

○展示構成：出土資料および写真・文字パネルによる展示



大さびかおぼつくりの時代

いまだ弥生前期後半という早い時期に、およそ400年ほど続いた大きなお墓を築き始めた時代がありました。この大きなお墓を古墳とよび、この時代を古墳時代とよんでいます。この時代前半から西日本との関係が次第に強くなり、さらには古墳時代になるまでの古墳構築を伴った、強力な大規模集落の出現として知られる弥生後葉の到来が、その勢力が広がってきたお墓づくりとつながりていきました。雷神山古墳もこうした流れの中で造られた最大規模の古墳です。



古墳の見方

古墳には古墳の形、古墳の大きさ、古墳の築造時期、古墳の築造場所、古墳の築造方法、古墳の築造目的、古墳の築造者などがあります。古墳の見方には、古墳の形、古墳の大きさ、古墳の築造時期、古墳の築造場所、古墳の築造方法、古墳の築造目的、古墳の築造者などがあります。



雷神山古墳は全国で52番目の大きさです。

(前期では最大規模となります。)

古墳名	所在地	築造時期	最大径	最大高さ
雷神山古墳	宮城県名取市	古墳時代前期後半	約100m	約10m
大塚古墳	宮城県仙台市	古墳時代前期後半	約100m	約10m
大塚古墳	宮城県仙台市	古墳時代前期後半	約100m	約10m
大塚古墳	宮城県仙台市	古墳時代前期後半	約100m	約10m
大塚古墳	宮城県仙台市	古墳時代前期後半	約100m	約10m
大塚古墳	宮城県仙台市	古墳時代前期後半	約100m	約10m
大塚古墳	宮城県仙台市	古墳時代前期後半	約100m	約10m
大塚古墳	宮城県仙台市	古墳時代前期後半	約100m	約10m
大塚古墳	宮城県仙台市	古墳時代前期後半	約100m	約10m
大塚古墳	宮城県仙台市	古墳時代前期後半	約100m	約10m

古墳の大きさ

古墳名	所在地	築造時期	最大径	最大高さ
雷神山古墳	宮城県名取市	古墳時代前期後半	約100m	約10m
大塚古墳	宮城県仙台市	古墳時代前期後半	約100m	約10m
大塚古墳	宮城県仙台市	古墳時代前期後半	約100m	約10m
大塚古墳	宮城県仙台市	古墳時代前期後半	約100m	約10m
大塚古墳	宮城県仙台市	古墳時代前期後半	約100m	約10m
大塚古墳	宮城県仙台市	古墳時代前期後半	約100m	約10m
大塚古墳	宮城県仙台市	古墳時代前期後半	約100m	約10m
大塚古墳	宮城県仙台市	古墳時代前期後半	約100m	約10m
大塚古墳	宮城県仙台市	古墳時代前期後半	約100m	約10m
大塚古墳	宮城県仙台市	古墳時代前期後半	約100m	約10m



②第2回企画展示「山岡古墳のお宝 一時里帰りした名取の至宝」

○展示内容:かつて飯野坂にあった「山岡古墳」は、昭和24年に東北大学により発掘調査が行われ、東北では珍しい頭椎大刀(かぶつちのたち)が出土したほか、ガラス玉なども出土しています。これらは、これまで市民が直接目にする機会がありませんでしたが、東北大学からお借りして展示することができました。展示では、調査時の状況や、横穴式石室や頭椎大刀の概要、太刀が出土した意味などについて出土品やパネルなどにより紹介しました。

○会期:令和2年9月19日(土)～12月20日(日)

○開催日数:80日間

○入館者数:2,818人

○会場:歴史・民俗の展示室 企画展示コーナー

○展示構成:出土資料および写真・文字パネルによる展示

○印刷物:ポスター(カラー)A2 10枚・A3 50枚、
チラシ(カラー)A4 400枚



③第3回企画展示「令和元年度発掘調査報告展」

○展示内容:令和元年度に実施した39件の発掘調査の中から、縄文時代中期の竪穴住居や土器・石器などが見つかった高館川上の西北遺跡(にしきたはたいせき)や、平安時代の掘立柱建物跡のほか、市内では出土例が少ない灰釉陶器(かいゆうとうき)などが出土した、手倉田(てくらだ)の八幡遺跡(はちまん)などの調査成果を、写真や実物などにより紹介しました。

○会期:令和3年1月9日(土)～3月28日(日)

○開催日数:68日間

○入館者数:

○会場:歴史・民俗の展示室 企画展示コーナー

○展示構成:出土資料および写真・文字パネルによる展示

○印刷物:ポスター(カラー)A2 10枚・A3 50枚、
チラシ(カラー)A4 400枚

第3回企画展
「令和元年度発掘調査報告展」

2021
1.9(土)
3.28(日)

名取市教育委員会が令和元年度に行った発掘調査の中でも、縄文時代中期の竪穴住居跡や土器が見つかった高館川上の西北遺跡、平安時代の掘立柱建物跡等が見つかった手倉田の八幡遺跡を中心に紹介します。

<p>展示解説案内</p> <p>名取市歴史民俗資料館の常設展示室にて開催いたします。</p> <p>日時 ①1月10日(日) ②1月11日(月・祝) ③1月16日(土) ④1月17日(日) 各13:30～14:30</p> <p>参加料 無料</p> <p>申し込み 不要</p> <p>集合場所 考古の展示室 受付前</p>	<p>まが玉づくり体験</p> <p>日時 1月23日(土) 9:30～11:30</p> <p>参加料 200円(材料費)</p> <p>服装 汚れてもいい服装(にふく)</p> <p>場所 体験学習室</p> <p>申込方法 1月23日(土)午前9時から電話で申し込みください。</p> <p>参加料 無料</p> <p>申し込み 不要</p> <p>集合場所 考古の展示室 受付前</p>	<p>第2回名取の歴史講座</p> <p>内容 「令和元年度の発掘調査報告展」について</p> <p>日時 1月30日(土) 13:30～15:00</p> <p>場所 体験学習室</p> <p>参加料 無料</p> <p>申込方法 1月19日(金)午前9時から電話で申し込みください。</p> <p>参加料 200円</p> <p>申し込み 不要</p> <p>集合場所 考古の展示室 受付前</p>
---	--	--

名取市歴史民俗資料館 開館時間 9:00～17:00

〒981-1224 宮城県名取市増田一丁目7-37 電話 022-724-7935



4. 学習・交流活動

(1) 歴史スポットめぐり

市内歴史スポットめぐりは、歴史民俗資料館の職員がガイドとなり、オープンした資料館の展示の解説と、市内各所に点在する魅力あふれる歴史スポットをバスでめぐるツアーを併せた企画で、今年度は、8月・10月・11月の3回実施し、各回、土曜日と日曜日にそれぞれ別コースで実施し計6日行いました。今年度は開館初年度であることから、まずは市内を代表する歴史スポットをめぐることのできる2つのコースを設定して行いました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、毎回の募集人数を20名に絞り、各回バス2台を借りて実施しました。今後も、新しいコースなどを増やしなが、継続的に取り組んで行く予定です。

【おすすめコース①】

市内の主要な歴史文化スポットの中から、市西部の高館や愛島地区の丘陵部から、中央の増田地区などを中心に回るコースで、熊野三社や藤原実方の墓などのほか、雷神山古墳や旧中沢家・洞口家住宅をめぐります。

- 熊野那智神社→熊野本宮社→熊野神社（新宮社）→
藤原実方の墓→十三塚遺跡→旧中沢家住宅→雷神山古墳→衣笠の松→洞口家住宅



【おすすめコース②】

市内の主要な歴史文化スポットの中から、市中央部の増田や東部の下増田・閑上地区を中心に回るコースで、下増田飯塚古墳群や、閑上の日和山、閑上土手の松並などのほか、雷神山古墳や旧中沢家・洞口家住宅をめぐります。

- 十三塚遺跡・旧中沢家住宅→雷神山古墳→洞口家住宅
→下増田飯塚古墳群→日和山・貞山運河→閑上土手の松並



①第1回歴史スポットめぐり

開館後はじめての歴史スポットめぐりで、参加者が集まるのか不安もありましたが、両日とも暑い中、多くの方に参加頂き一緒に楽しく回ることができました。初日は、市長さんも一緒に参加されました。

○開催日時：令和2年8月22日（土）9：00～15：00

○参加者：19人

○内容：おすすめコース①

○開催日時：令和2年8月23日（日）9：00～15：00

○参加者：17人

○内容：おすすめコース②

市内歴史スポットめぐり 第1回 開催決定

開催日：①令和2年8月22日（土）おすすめコース①
②令和2年8月23日（日）おすすめコース②

人数：①・②両日ともに20名
時間：9:00～15:00
集合・資料館 古墳あられ広場 8:45分

参加料：無料
申し込み：詳細は、広報室と10月号、市h.p.、資料館h.p.でお知らせします。

雨天時：大雨などの場合を鑑み実施します。

令和2年8月22日（土）のコース

1	おすすめコース①
2	資料館の歴史
3	藤野野宮神社
4	藤野野宮神社
5	藤野野宮神社
6	藤野野宮神社
7	藤野野宮神社
8	藤野野宮神社
9	藤野野宮神社
10	藤野野宮神社
11	藤野野宮神社
12	藤野野宮神社
13	藤野野宮神社
14	藤野野宮神社
15	藤野野宮神社
16	藤野野宮神社
17	藤野野宮神社
18	藤野野宮神社
19	藤野野宮神社

令和2年8月23日（日）のコース

1	おすすめコース②
2	資料館の歴史
3	藤野野宮神社
4	藤野野宮神社
5	藤野野宮神社
6	藤野野宮神社
7	藤野野宮神社
8	藤野野宮神社
9	藤野野宮神社
10	藤野野宮神社
11	藤野野宮神社
12	藤野野宮神社
13	藤野野宮神社
14	藤野野宮神社
15	藤野野宮神社
16	藤野野宮神社
17	藤野野宮神社



②第2回歴史スポットめぐり

17日土曜日の午前中は、一時、小雨が降る天気でしたが、それでも両日とも20名の方々が参加され、熱心に職員へ質問などを行いながら各スポットをめぐりました。

○開催日時：令和2年10月17日（土）9：00～15：00

○参加者：20人

○内容：おすすめコース①

○開催日時：令和2年10月18日（日）9：00～15：00

○参加者：20人

○内容：おすすめコース②

市内歴史スポットめぐり 第2回 開催決定

開催日：①令和2年10月17日（土）おすすめコース①
②令和2年10月18日（日）おすすめコース②

人数：①・②両日ともに20名
時間：9:00～15:00
集合・資料館 古墳あられ広場 8:45分

参加料：無料
申し込み：詳細は、広報室と11月号、市h.p.、資料館h.p.でお知らせします。

雨天時：大雨などの場合を鑑み実施します。

令和2年10月17日（土）のコース

1	おすすめコース①
2	資料館の歴史
3	藤野野宮神社
4	藤野野宮神社
5	藤野野宮神社
6	藤野野宮神社
7	藤野野宮神社
8	藤野野宮神社
9	藤野野宮神社
10	藤野野宮神社
11	藤野野宮神社
12	藤野野宮神社
13	藤野野宮神社
14	藤野野宮神社
15	藤野野宮神社
16	藤野野宮神社
17	藤野野宮神社
18	藤野野宮神社
19	藤野野宮神社

令和2年10月18日（日）のコース

1	おすすめコース②
2	資料館の歴史
3	藤野野宮神社
4	藤野野宮神社
5	藤野野宮神社
6	藤野野宮神社
7	藤野野宮神社
8	藤野野宮神社
9	藤野野宮神社
10	藤野野宮神社
11	藤野野宮神社
12	藤野野宮神社
13	藤野野宮神社
14	藤野野宮神社
15	藤野野宮神社
16	藤野野宮神社
17	藤野野宮神社



③第3回歴史スポットめぐり

11月の少し肌寒い季節ではありましたが、親子連れで参加された方など、寒さに負けず多くの方々に歴史スポットをご案内することができました。

○開催日時：令和2年11月21日（土）9：00～15：00

○参加者：17人

○内容：おすすめコース②

○開催日時：令和2年11月22日（日）9：00～15：00

○参加者：21人

○内容：おすすめコース①



(2) 資料館まつり

「資料館まつり」は、当館が主催する1年で最大のイベントとして、開館後初となる第1回目の資料館まつりが、令和2年11月15日の日曜日に開催されました。当日は秋晴れの天候に恵まれ、家族連れなど延べ223名の方々に来館頂き、コロナウイルス感染症の拡大防止に配慮しながら、敷地駐車場に設けたメインステージのほか、体験学習室、古墳ふれあいひろばなどの各場所での催事、物販コーナーの設置、展示室内での企画展示や常設展示の案内など、多くの方々からご協力頂いて開催することができました。

このほか会場では、名取の歴史のシンボルでもあり、古墳ふれあいひろばにあるミニ古墳のモデルにもなっている雷神山古墳をイメージした「古墳クッキー」がもらえる資料館スタンプラリーも行われ、古墳ひろばの前では、東日本大震災後に当時図書館として利用されていた、当館の展示室の建物建設をご支援頂いたことから、復興ありがとうホストタウンのカナダの紹介ブースも併せて設けられました。

○開催日時：令和2年11月15日（日）10：00～14：00

○参加者：223人

○内容：各場所での実施内容は以下のとおりです。



【メインステージ】

敷地内の駐車場に設けられたメインステージでは、「エフエムなとり」のMCのもと、午前中には、手倉田榊取り舞保存会の皆さんによる、市指定無形民俗文化財「手倉田榊取り舞」や、道祖神神楽保存会の方々による、宮城県指定の無形民俗文化財「道祖神神楽」の披露のほか、資料館ビンゴや資料館クイズなどの企画が行われました。



また、午後からは、なとり昔ばなし語りの会の皆さんによる、味わい深いなとりの昔ばなしの披露や、増田中学校吹奏楽部の皆さんによる迫力ある生演奏などを披露して頂きました。



【古墳ふれあいひろば】

午前中のメインステージのイベント後には、古墳ふれあいひろばで「はに輪投げ大会」が行われました。この企画は、名取の古墳からも見つかっている丸い筒状をした複数の円筒埴輪のレプリカを軸にした輪投げ大会で、ロープでできた輪を5本ずつ投げて、3本入ったら大成功というものです。実際に投げてみると結構むずかしく、大人でも全部入れることは滅多にできない位のものでしたが、会場へ来ていた子供たちが、あきらめないで一生懸命チャレンジしてくれました。最後の方はコツをつかんで、全部成功させることができた子もいました。



【体験学習室】

体験学習室の中では、まが玉づくり、缶バッジづくり、しおりづくりの3つの体験コーナーを設置し、資料館のボランティアさん達も、参加者の方々の体験のサポートなどの活動を行いました。



【その他】資料館スタンプラリー、物販コーナー

受付前には、ハンディキャップをお持ちの方々への就労支援などを行っている名取市友愛作業所にご協力頂き物販コーナーも設置しました。



(3) 歴史講座

①第1回歴史講座「名取の主な歴史について」

○内容：資料館の開館後、はじめての歴史講座のため、まずは市内にある指定文化財をはじめとする主な文化財についての概要を、当館職員がスライドなどにより、分かりやすく説明しました。また、併せて、資料館で実施中の第2回企画展の展示解説も行いました。当日は、午前の部と、午後の部の2回に分けて実施しました。

○開催日時：令和2年9月20日（日）

（午前）10：00～11：30、（午後）13：30～15：00

○参加者：25人

○講師：当館職員

○会場：体験学習室



②第2回歴史講座「令和元年度の発掘調査成果について」

○内容：この講座は、1月9日（土）～3月28日（日）までの期間で開催中の、第3回 企画展「令和元年度発掘調査報告展」の関連イベントとして実施したもので、当日は、職員3名やボランティアの方も含め計20名が参加し、講師を文化・スポーツ課の発掘調査担当職員が担当し、発掘調査の様子や出土品などについてスライドにより紹介しました。参加者の方々も熱心に講師の話に耳を傾け、質疑なども活発に行われました。



○開催日時：令和3年1月30日（土） 13:30～15:00

○参加者：20人 ○講師：当館職員 ○会場：体験学習室

(4) 講演会「雷神山古墳からみた古墳時代」

市の歴史文化のシンボルとも言える東北最大の雷神山古墳のほか、市内には数多くの古墳があります。講演会では、古墳から伺える当時の社会の在り方などについて、研究成果を踏まえ紹介して頂くため、東北大学総合学術博物館教授の藤澤 敦 氏に講演をお願いしました。

講演会では、雷神山古墳が一般に知られるようになった経緯を振り返るとともに、政治の中心であった近畿地方の古墳の築造時期や場所の変遷、仙台平野を含む東北地方の古墳築造の在り方などを見た場合、同じ場所での連続的な権力継承により次第に権力が増強された結果、雷神山古墳のような大型古墳（首長墓）が築造されるに至ったという従来のイメージとは異なり、それぞれの地域や、その時々各地域の首長と中央の勢力との個別的・断続的な関係性に基づき大型古墳（首長墓）も含めた古墳は築造されていたのではないかとのお話を頂き、活発な質疑・応答も行われました。

講演会
「雷神山古墳からみた古墳時代」
3月7日(日)
13:30～15:00 講師 藤澤 敦氏
場所 体験学習室
参加費 無料
申し込み 3月2日(火)午前9時から直接または電話でお申し込みください。
先着順(定員20名)。参加者または家族の方のみ受け付けます。
体験イベント ミニ縄文土器づくり体験
日時 3月13日(土)13:30～15:30
参加料 200円(材料費)
服装 粘土等を使う作業のため、多少汚れてもよい服装でお越し下さい。
定員 15名
申込方法 3月4日(木)午前9時から直接または電話でお申し込みください。
先着順。参加者または家族の方のみ受け付けます。
小学生以下が参加する場合、保護者の方の同伴が必要です。
場所 体験学習室
名取市歴史民俗資料館 開館時間 9:00～17:00
〒981-8224 休館日 毎週月曜日(休館日) 毎週火曜日(休館日)
TEL 022-724-7935 FAX 022-724-7936 入館料 無料

○開催日時：令和3年3月7日（日）13:30～15:00

○参加者：20人

○講師：藤澤 敦氏（東北大学総合学術博物館）

○会場：体験学習室



(5) 各種案内・出前講座・展示解説

①各種案内等

来館者への展示室や施設案内のほか、新聞・雑誌・ラジオなどの各種媒体に関する取材や案内、屋外の歴史スポットでの案内・説明、生涯学習課が担当する出前講座の依頼を受けた職員派遣による案内など、主なものだけで30件を超えるものについて行いました。

【現地説明】：資料館が主催する歴史スポットめぐり以外の館外での案内・説明については、表に記載した2件について実施しました。

1件目は岩沼市文化財友の会からの依頼で、資料館展示室の案内・説明に続いてバスで現地へ移動し、名取熊野三社の内の熊野神社および熊野那智神社の現地案内を行いました。熊野神社では、宮城県指定の建造物でもある熊野神社本殿について、神社の宮司さんにご案内して頂いて、貴重なお話を伺うことができました。

また、2件目は、山形県鶴岡市の朝陽^{ちょうよう}第六小学校の6年生の皆さんの修学旅行に伴う、史跡 雷神山古墳の現地案内を行いました。当日は天気にも恵まれ雷神山古墳からの眺めも良く、西は高館丘陵から、東は太平洋まで見ることができ、名取市の地形や雷神山古墳が造られた場所の環境や雰囲気も体感してもらうことができました。資料館の職員の説明を聞いた後は、事前の学習などで決めてきた班ごとの活動が行われ、その中には長さ50m程の巻尺を使って、実際に東北最大の大きさと言われている雷神山古墳の全長が、本当に168m有るのかを測ってみた班もあり、とても充実した活動になったようです。



No.	団体名	日時	人数	見学場所	備考
1	岩沼市文化財友の会	R2. 10. 9 10:00-11:50	30	熊野神社、熊野那智神社	
2	鶴岡市立朝陽第六小学校	R2. 10. 16 9:30-10:20	111	雷神山古墳	

【館内案内】：資料館の来館者への展示室の案内・説明については職員が随時行っているが、その中で特に団体利用の申請を受けて実施したものを中心に下の表にまとめました。コロナウイルス対策や展示室のスペース等の都合上、人数が多い場合については、2班に分かれての案内や説明を行ったものもあります。依頼の内容としては、一般的な展示見学や学習活動に伴うもののほか、研修会や会議などと併せて行うもの、モニターツアーなどがあり、展示室の見学と併せてまが玉づくり体験を行ったものもあります。





No.	団体名	見学日時		人数	備考
1	名取市名取が丘公民館「男UP倶楽部」	R2. 10. 6	9:45-11:00	12	
2	宮城県退職公務員連盟名取支部	R2. 10. 11	9:30-10:10	15	
3	(公財) 仙台市市民文化事業団 仙台市富沢遺跡保存館	R2. 10. 28	10:00	6	
4	㈱近畿日本ツーリスト東北 (名取市事業モニターツアー)	R2. 10. 3	10:50-11:30	20	
5	岩沼市文化財友の会	R2. 10. 9	9:00-10:00	30	現地解説：熊野神社、那智神社
6	那智が丘公民館講座「那智大学」	R2. 10. 7	9:30-10:30	15	
7	名取市校長会	R2. 10. 15	8:30-12:00	18	
8	㈱近畿日本ツーリスト東北 (名取市事業モニターツアー)	R2. 10. 31	10:50-11:30	20	
9	㈱近畿日本ツーリスト東北 (名取市事業モニターツアー)	R2. 11. 14	10:15-11:00	20	
10	㈱近畿日本ツーリスト東北 (名取市事業モニターツアー)	R2. 12. 5	10:50-11:30	20	
11	ゆりが丘公民館	R2. 10. 28	13:00-15:00	16	まが玉づくり
12	名取市教育委員会(教育機関訪問)	R2. 10. 29	13:15-15:00	11	まが玉づくり
13	名取市副校長・教頭会	R2. 12. 10	8:30-11:50	24	
14	上余田老人クラブ	R2. 10. 30	10:45-11:30	18	
15	増田西地区福祉委員会	R2. 11. 27	9:20-10:20	20	
16	下増田民生委員児童委員	R2. 11. 5	10:15-10:50	14	
17	名取市副校長・教頭会	R2. 12. 11	8:30-11:50	24	
18	公共施設見学会(市内ぐるっとめぐり)	R3. 1. 21	15:15-15:50	20	

②出前講座

生涯学習推進事業として市で実施しているマナビィ講師派遣事業「出前講座」を通じた計3件の依頼に応じて、資料館の職員の講師派遣を行い、出前講座メニューに登録されている「なとりの歴史と文化財」や「ふるさと名取の歴史」について、市内に所在する国・県・市指定等の文化財の概要や、各時代の主要な文化財などについて、スライドなどを用いながら紹介を行った。令和2年度に実施した出前講座は以下の表のものを行っています。

No.	受付日	団体名	講座日時	人数	構成	テーマ	会場
1	R2. 9. 24	ゆりが丘二丁目 「ふづき会」	R2. 10. 30 14:00-15:30	16	高齢者 (65歳以上)	なとりの歴史 と文化財	ひだまり会館 (ゆりが丘二丁目集会所)
2	R2. 8. 18	増田西公民館	R2. 11. 19 10:00-11:30	21	高齢者 (65歳以上)	なとりの歴史 と文化財	増田西公民館
3	R2. 10. 14	宮城県年金協会 名取地区会	R3. 2. 5 13:45-14:30	35	高齢者 (65歳以上)	なとりの歴史 と文化財	市民活動支援センター

③展示解説

企画展の実施期間中などに合わせて、資料館の職員が常設展示および企画展示の内容や見どころなどを案内したもので、実施日に集まった方を対象に行っています。実施日は、第3回の企画展示「令和元年度発掘調査報告展」の関連イベントとして募集した、令和3年1月10日(日)、1月11日(月)、1月16日(土)、1月17日(日)の4日間で、計4回実施し、資料館のボランティアさんも研修を兼ねて参加頂きました。1回あたりの説明時間は60分の予定としていましたが、参加者の方々も熱心に質問などとして頂き、実際には90分近くにも及ぶこともありました。このほか、職員による企画展示の案内については、まが玉づくりなどの体験イベントの一部として行ったものもあります。



5. 体験学習活動

(1) 体験イベント

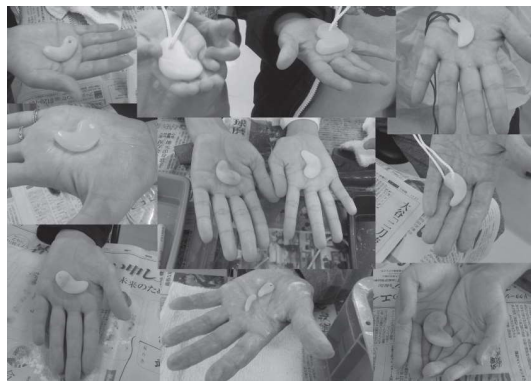
資料館主催の事業として参加者を募集し行った体験型のイベントです。当初の予定では開館後直ぐにスタートする予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止などもあり、第1回目は、ようやく9月27日(日)に開催することができましたが、募集人数も抑え、十分な対策を行った上での開催となりました。体験イベントの内容は大きく分けて①まが玉づくりと、②ミニ縄文土器づくりの2種類を実施し、いずれも資料館の体験学習室で実施しています。

①まが玉づくり

第1回目は、1日に午前の部と午後の部の2回に分けて、それぞれ90分で実施しましたが、もう少し長い時間体験したいとの声もあったことから、2回目以降は、2時間をかけて、まが玉1個と、うす玉2個を作るという内容に変更して実施しました。はじめに職員から製作の手順などを聞いて製作に移ると、参加者の皆さんが製作に没頭して石を削っている姿がとても印象的でした。丁寧に磨いてでき上がったオリジナルのまが玉を首にかけると、思わず笑みがこぼれてしまいます。自宅へ持ち帰ってさら

にピカピカに磨くという方もいらっしゃいました。

まが玉づくりの体験イベントは、資料館ボランティアさん達の協力を得ながら、表のとおり計5回実施することができました。



No.	実施日	実施時間	人数	体験内容
1	令和2年9月27日(日)	午前:10:00~11:30 午後:13:30~15:00	30	まが玉1個
2	令和2年12月12日(土)	9:30~11:30	21	まが玉1個、うす玉2個
3	令和2年12月19日(土)	9:30~11:30	15	まが玉1個、うす玉2個
4	令和3年1月23日(土)	9:30~11:30	16	まが玉1個、うす玉2個
5	令和3年2月13日(土)	9:30~11:30	19	まが玉1個、うす玉2個

②ミニ縄文土器づくり

この体験イベントは、1回目は第3回企画展示の関連イベントとして、令和3年2月20日(土)に実施しました。当館は市街地の住宅地内に立地しているため、土器づくり体験を行う場合、屋外の野焼きには環境が適していないことから実施は難しい想定もありましたが、隣地にある名取市友愛作業所さんが所有する陶芸用の電気窯で焼き上げ作業を行わせて頂けることになり、実施することができました。第2回の令和3年3月13日(土)と合わせて2回のイベントを実施することができました。はじめに当館職員から、スライドや実演などによる説明を行い、さっそく

粘土を延ばしたり、隙間を無くすように指でナデたりしながら器の形を作っていました。ある程度形ができ上がった後は、縄文を転がしたり、竹管、棒などを使ったりして文様付けをして仕上げていきました。大人も子供も一緒になって、楽しく真剣になって作品づくりに取り組み、予定していた約2時間が、あっという間に過ぎていきました。でき上がった作品は高さ10～15cm程のもので、どれも個性的なものが多く、焼き上がりがとても楽しみです。作品については、資料館で数週間の乾燥の後に焼き上げ作業を実施して、参加者の方々へ手渡されました。

また、土器づくり体験イベントも、資料館ボランティアの方々の研修も兼ねて実施しています。

名取市歴史民俗資料館 2月開催のイベント

①串が玉づくり体験
 日時 2月13日(土) 9:30～11:30
 参加料 200円(材料費)
 服装 石材を削る作業や水を使う作業があるため、多少汚れてもよい服装をお願いします。
 定員 20名
 申込方法 2月3日(水)午前9時から直接または電話でお申し込みください。
 場所 体験学習室

②体験イベント ミニ縄文土器づくり体験
 日時 2月20日(土) 13:30～15:30
 参加料 200円(材料費)
 服装 粘土等を使った作業のため、多少汚れてもよい服装をお願いします。
 定員 20名
 申込方法 2月10日(水)午前9時から直接または電話でお申し込みください。

※注意事項 (両事業の両方の場合は) 新型コロナウイルスの感染防止により、日曜の定員が変更される場合があります。詳しくは資料館ホームページをご覧ください。

名取市歴史民俗資料館 〒981-1224 宮城県名取市増田一丁目7-37
 TEL. 022-724-7935 FAX 022-724-7936

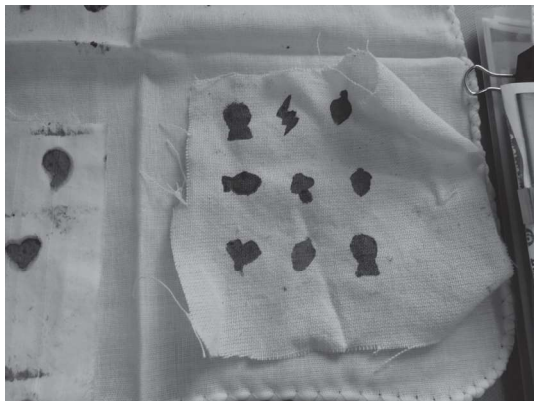


No.	実施日	実施時間	人数	体験内容
1	令和2年9月27日(日)	13:30～15:00	15	ミニ縄文土器づくり
2	令和3年3月13日(土)	13:30～15:30	18	ミニ縄文土器づくり

6. 調査・研究活動

当初の事業計画では、令和2年度の調査・研究活動のテーマとして、体験学習メニューの調査・検討などを予定していたが、開館初年度であった点や新型コロナウイルス感染症の影響などもあり、十分な

調査・検討をすることはできなかったが、今後の体験学習メニューの候補として、タデアイの生葉染め・藍染めを取り入れたオリジナルグッズの製作や、牛乳パックを用いた紙漉きを取り入れたハガキの製作など、幾つかのものについて情報収集と試作を実施したものがああります。



また、詳しくはIV章その他の頁に資料紹介として掲載しましたが、まだ実態がつかめていない西部の丘陵にある北野窯跡と南台窯跡の2つの須恵器窯跡の資料整理や資料化作業を行い、これまでの知見などに基づき紹介しています。

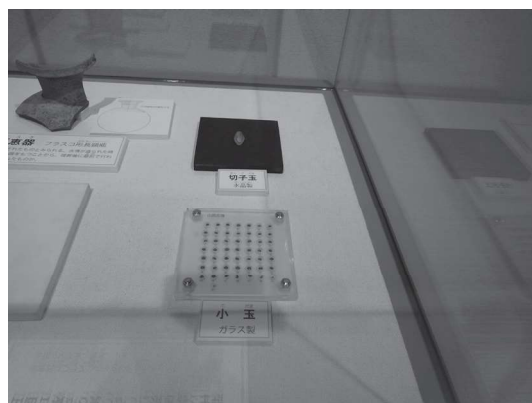
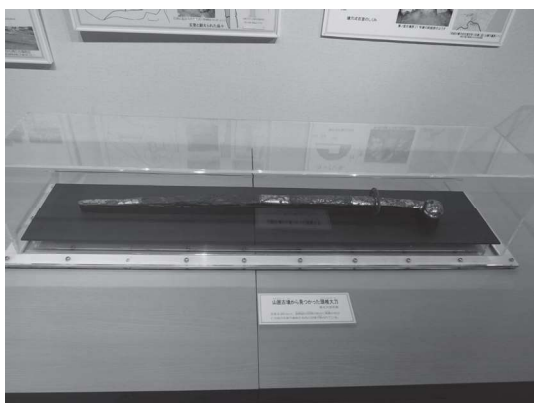
7. 資料管理・利用

(1) 収蔵資料利用

令和2年度の収蔵資料利用として、市や資料館のHP、刊行物等に掲載している写真や図版資料について、書籍や冊子などへの転載に伴うものや、資料館の開館を紹介した名取市図書館での展示に伴う民俗資料の借用など計5件の利用申請がありました。利用資料については、下増田飯塚古墳群や、名取熊野三社関連のもの、開運橋、高館山古墳に関する写真・図資料をはじめ、アイロン・羽釜をはじめとする民具資料がありました。



また、当館の企画展示等の実施にあたっては、仙台市、多賀城市、岩沼市、白石市、利府町、東北歴史博物館、愛知県陶磁美術館などへ写真や図版資料の利用申請を、東北大学へ資料借用申請を行い実施しました。



(2) 資料調査

令和2年度では、当館の収蔵資料の中から考古資料についての資料調査や閲覧・写真撮影などの依頼が計3件ありました。市内の須恵器窯跡である北野窯跡出土の資料や上余田遺跡の発掘調査で出土した須恵器の資料調査、同じく、田高の原遺跡出土の弥生時代の磨製石斧や、同じ時期の市内出土の磨製石斧の観察や計測などを目的としたもの、舞台上遺跡から出土している土師質土器皿の観察・調査を目的としたものなど、いずれも個人の調査・研究を目的とした調査です。今後も、収蔵資料などの情報発信に努めながら、より多くの利用が図られ、新たな知見の発見につながることも期待されます。

(3) 寄贈・寄託

資料館の開館後、民俗資料を中心とした資料の寄贈の問い合わせなどが寄せられており、資料館の職員が、収蔵資料の状況などにに基づき手続きを行い、寄贈頂いたものがあります。令和2年度には、合わせて6件、延べ15点の資料を寄贈頂きました。寄贈頂いた資料には、どんづき1点、わら裁断機1点、今熊野遺跡から採集された剥片石器3ケースと石斧1点、桶3点、ニバコ2点、竹製の1点、茅ばさみ1点、高機および染色糸など1式があり、寄贈資料頂いた資料については、収蔵資料などへの登録を行い、今後の展示公開や体験、調査・研究活動などへ活用していく予定です。



(4) 収蔵資料整理

資料館の開館に向け、市が所蔵している資料の内、考古資料約13,000点についてはデータベース化を図り資料館のホームページで公開しており、今後の調査実施に伴うデータ追加や写真データの充実を図りながら使いやすいデータベースの構築が望まれます。

令和2年度については、市が所蔵している江戸時代以降の民具資料を中心として民俗資料の整理作業を実施しています。民具関係の資料については、その多くが過去に収集し寄贈されたものを中心であり、これらの資料については、複数の同一・類似品が1件として登録されているものもあり、データベース化を図るために、個体毎の番号を再符号しながらデータベース化を図るとともに、資料へ改めて番号を符号し、写真撮影を行うなどの作業を実施しました。作成されたデータベースを基に、資料館の収蔵管理システムへの登録を行い、既に公開済みの考古資料とともに公開を図り、今後の保存・活用に活かしていきます。

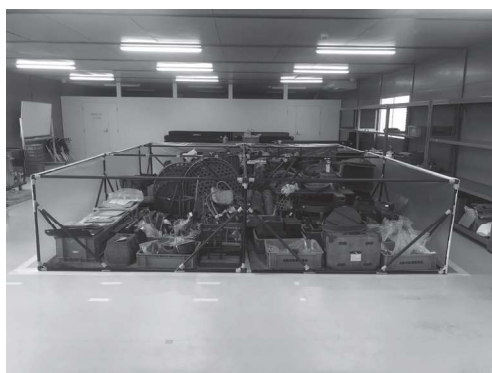


(5) 燻蒸・調査

展示室をはじめとする当館の建物は、東日本大震災の後に図書館として建築された木造建築を改修したものであり、気密性や遮蔽性など、専用施設として計画された建物に比して相対的に低い状況です。また、その環境が年間の気候変動などでどのように推移して行くのか、施設利用開始後の実態を調査・分析し、その結果に基づいて対応していく必要があります。また、展示物などに対して加害の恐れがある害虫や細菌類などの生息調査についても同様に必要で、一定の基準以下となるよう燻蒸処理を行う必要があります。専門業者へ業務委託を行い環境調査や収蔵・展示資料の燻蒸処理を行いました。

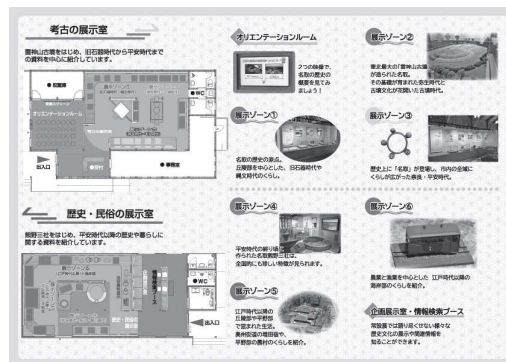
環境調査では、展示室のほか文化財収蔵館1階も対象区域に含め計2回、それぞれ約1ヶ月実施した。調査内容には①昆虫生息調査、②浮遊菌調査、③塵埃調査（温湿度・炭酸ガス・照度含）があり、その結果、①では木製品や書籍、乾燥植物質等を加害するジンサンシバンムシや、皮革、蚕繭、乾燥動植物質等を加害するヒメマルカツオブシムシが考古の展示室で、雑食性で植物質を好み紙質文化財などを加害するシミ科が歴史・民俗の展示室で、クロゴキブリの幼齢幼虫が文化財収蔵館で確認され、継続的なトラップ設置が推奨されています。また、②浮遊菌調査では、文化財収蔵館の数値が基準値を上回り、施設自体が経年劣化などにより外気の影響を受けやすい環境にあることが分かり、梅雨時期から夏にかけての高湿環境への対策実施が推奨されています。③の塵埃調査では、特に異常は認められませんでした。

展示収蔵資料の燻蒸作業は、施設の特徴から建物自体の密閉が困難であることから、体験学習室の内部に骨組みによる幅4m×奥行5m×高さ1mの密閉空間を作り出し、その内部に燻蒸対象となる展示・収蔵資料を入れ込み、公益財団法人文化財虫菌害研究所の認定薬剤をガス化・充填して行う包み込み燻蒸処理により実施しました。今回燻蒸処理を行った主な資料には、歴史・民俗の展示室の常設展示資料の内、古文書資料や民俗資料、文化財収蔵館で収蔵している古文書や書籍、借用などの件数の多い民具資料などを優先的に行いました。実施期間は約1週間で、この間、一時展示を中止した物があります。



8. 刊行物

令和2年度の段階では、資料館が作成した刊行物には、この『名取市歴史民俗資料館年報 一令和2年度ー』のほか、資料館の施設案内パンフレット（両面3つ折り・日本語版および英語版）があり、来館者や図書館をはじめとする市の関係施設などへ設置して各施設の利用者へ配布しています。



9. ボランティア活動

当館には、開館に先立ち平成30年度と令和元年度に募集を行い、計10回の研修講座を経て登録頂いた約20名の名取市歴史民俗資料館ボランティアの方々が活動しています。この活動は、当館が行う事業の円滑な実施を図るとともに、活動を通じてボランティアと資料館が相互に成長し、より充実した資料館の活動や地域づくり、人材育成へつなげることを目的としたもので、具体的には(1)体験学習・イベント参加者への学習・活動のサポート、(2)資料館の展示ガイド、(3)その他市内の主要な文化財のガイド、(4)地域の歴史・文化資源についての情報共有や調査・研究などを一緒に行っていくことを想定したものです。開館当初からボランティアさんの参加・協力を得ながら様々な活動を実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、本格的に活動を開始できたのは令和2年の9月以降からでした。活動の再開当初は、研修終了後から約半年の期間が経過していたことから、開館後の実際の常設展示や企画展示の解説やその他施設内の案内も含めたフォローアップの研修を併せて行い、今後の活動のイメージを持ってもらうことからスタートしました。その後は、資料館主催の歴史スポットめぐりや、まが玉づくりの体験イベント、資料館まつりなどの事業に参加・協力を行うなど、現在も継続的な活動を行っています。また、この頃から、2か月に1回の割合で、資料館の実施事業やボランティア活動について話し合う定例打合せ会を実施することとし、今年度は12月と2月の計2回実施しました。今年度は新型コロナウイルス感染症もあり、新規のボランティア募集は実施できませんでしたが、今後は、新規募集および研修会の実施なども行い充実を図る予定です。

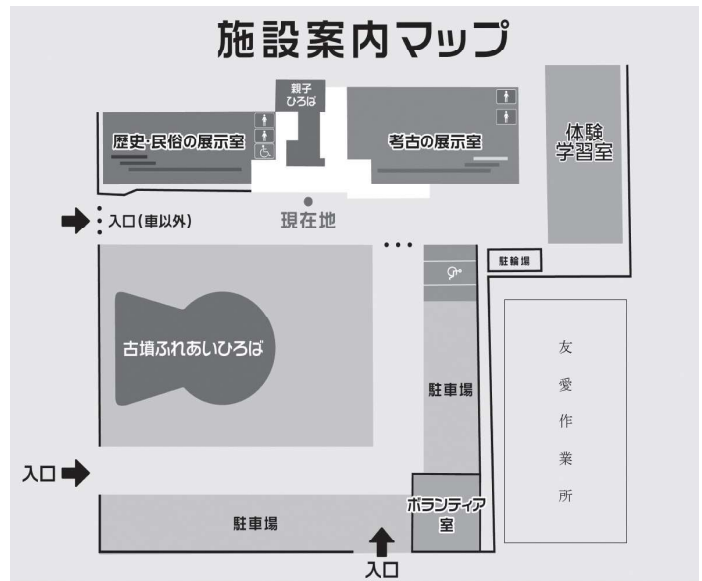


III. 資料

1. 施設概要

平成30年12月末まで、名取市図書館として利用されてきた当館の土地や建物には、東日本大震災の後に、カナダ連邦政府、ブリティッシュコロンビア州やアルバータ州、カナダウッド、(公財)日本ユニセフ協会や(公財)図書館振興財団をはじめとする支援で建てられた施設が多くあります。

当館の整備においては、これらの施設をできるだけ活かしながら、市の歴史文化の保存・活用の拠点となる施設として整備しました。当館の敷地(3,871㎡)内には、(1)～(4)の4つの建物のほか駐車場・駐輪場、古墳ふれあいひろば、親子ひろばがあります。



(1) 考古の展示室

オリエンテーションルーム、考古の展示室、収蔵庫、トイレ、受付・事務室があります。木造平屋建て(238㎡)。壁などの建材には、カナダツガ材が使用され、木の温もりを感じることができる建物です。平成25年のカナダー東北復興プロジェクトによる支援で建築された建物を活用しています。



(2) 歴史・民俗の展示室

歴史・民俗の展示室、企画展示室、情報検索ブース、トイレがあります。

木造平屋建て(157㎡)の建築物で、壁などの建材には杉材が用いられ、木の温もりを感じることができる建物です。平成23年10月に(公財)日本ユニセフ協会の支援で建築した建物を活用しています。



(3) 体験学習室

体験学習室と収納室があります。鉄骨造平屋のプレハブ(188㎡)建築物です。各種講座や講演会、まが玉づくりや、土器づくりなどの体験イベントなどを行うことができ水道も使用できます。テーブル・椅子を並べた場合、およそ30人での使用ができ、椅子だけを並べた場合には、約50人での使用が可能です。



(4) ボランティア室

資料館で活躍するボランティアさんの活動などを行う施設です。
鉄骨造平屋プレハブ（66㎡）の建物です。平成23年10月に（公財）図書館振興財団の支援で建築した建物を移設し活用しています。

(5) 古墳ふれあいひろば

雷神山古墳のおよそ1/10サイズの前方後円墳をモチーフとした盛土や遊具がある芝生の広場です。親子で遊びながら自然に古墳の形をイメージできる広場です。

(6) 親子ひろば

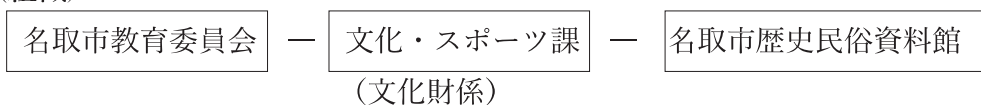
「考古の展示室」の建物と「歴史・民俗の展示室」の建物の間にある屋外スペースです。「考古の展示室」入口脇のウッドデッキやベンチと併せ、小さなお子様と親子でくつろげる人工芝敷きの空間です。幼児用の遊具があります。

(7) 駐車場・駐輪場

普通車22台（ハンディキャップ専用含む）の駐車が可能です。バスの駐車は「考古の展示室」および「歴史・民俗の展示室」の裏側への駐車可能です。（職員へご相談ください。）
駐輪場10台（屋根付き）の駐輪が可能です。

2. 組織・運営

(組織)



(運営)

職員：館長（文化財係他兼務） — 主事4（文化財係兼務） — 会計年度任用職員2

3. 予算

項目	予算額	備考
維持管理費	10,000,000円	職員人件費除
事業活動費	7,000,000円	

4. 条例・規則

○名取市歴史民俗資料館条例

令和元年12月27日
名取市条例第24号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条及び地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第1項の規定に基づき、名取市歴史民俗資料館(以下「資料館」という。)の設置及び管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 考古資料、歴史資料、民俗資料、郷土資料、埋蔵文化財等の保存及び活用を行うことにより、市民の文化の向上に資するため、資料館を設置する。

(名称及び位置)

第3条 資料館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名称	位置
名取市歴史民俗資料館	名取市増田一丁目7番37号

(業務)

第4条 資料館において、次に掲げる業務を行う。

- (1) 考古資料、歴史資料、民俗資料及び郷土資料(以下「考古資料等」という。)の収集、整理及び保管に関すること。
- (2) 考古資料等の調査及び研究に関すること。
- (3) 考古資料等の展示、利用及び普及啓発に関すること。
- (4) 埋蔵文化財に関する資料の収集、整理及び保管に関すること。
- (5) 埋蔵文化財の発掘、保全、調査及び研究に関すること。
- (6) 埋蔵文化財に関する資料の展示、利用及び普及啓発に関すること。
- (7) 前各号に掲げるもののほか、資料館の設置の目的を達成するために必要な業務に関すること。

(職員)

第5条 資料館に、館長その他必要な職員を置く。

(観覧料)

第6条 資料館が展示する資料の観覧料は、無料とする。

(委任)

第7条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から起算して6月を超えない範囲内において規則で定める日から施行する。
(令和2年教委規則第1号で令和2年4月26日から施行)

○名取市歴史民俗資料館条例施行規則

令和2年3月18日
名取市教育委員会規則第2号

(趣旨)

第1条 この規則は、名取市歴史民俗資料館条例(令和元年名取市条例第24号。以下「条例」という。)第7条の規定に基づき、条例の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

第2条 名取市歴史民俗資料館(以下「資料館」という。)の開館時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、教育委員会が特に必要があると認めるときは、開館時間を変更することができる。

(休館日)

第3条 資料館の休館日は、次のとおりとする。ただし、教育委員会は、特に必要があると認めるときは、休館日を変更し、又は別に休館日を定めることができる。

- (1) 月曜日。ただし、月曜日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日当たるときは、その日後においてその日に最も近い当該休日でない日
- (2) 12月29日から翌年1月3日までの日

(入館者の遵守事項)

第4条 入館者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 展示物に触れないこと及び展示室でインク、墨汁等を使用しないこと。
- (2) 許可を得ないで展示物又は資料を模写し、又は撮影しないこと。
- (3) 他の入館者に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、係員の指示に従うこと。

(入館の制限等)

第5条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、資料館への入館を拒否し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 公の秩序又は善良な風俗を害するおそれがあるとき。
- (2) 施設、設備器具又は展示物を損傷するおそれがあるとき。
- (3) 前2号に掲げる場合のほか、資料館の管理に支障を及ぼすおそれがあるとき。

(寄贈等)

第6条 資料館に資料を寄贈し、又は寄託しようとする者は、教育委員会に申し出なければならない。

(所蔵資料の貸出し)

第7条 資料館に所蔵されている資料(以下この条及び次条第2項において「所蔵資料」という。)の貸出しは、行わないものとする。ただし、博物館、美術館、図書館、学校その他教育委員会が適当と認める施設において所蔵資料を展示し、又は学術上の研究、学習等に用いる場合は、この限りでない。

2 前項ただし書の規定により所蔵資料の貸出しを受けようとするものは、所蔵資料貸出承認申請書を教育委員会に提出し、その承認を受けなければならない。この場合において、貸出しを受ける所蔵資料が寄託物であるときは、寄託者の承諾書を併せて提出しなければならない。

3 第1項ただし書に規定する場合における所蔵資料の貸出期間は、60日以内とする。ただし、教育委員会が特に必要があると認めるときは、この限りでない。

(損傷等の届出)

第8条 資料館の施設、設備器具、展示物等を損傷し、又は亡失させた者は、直ちに係員に届け出て、その指示に従わなければならない。

2 前項の規定は、所蔵資料(前条第2項の承認を受けることにより貸し出されたものに限る。)を損傷し、又は亡失させた者について準用する。

(委任)

第9条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、条例の施行の日から施行する。

5. 沿革

平成29年12月	(仮称)名取市歴民民俗資料館 基本計画策定
平成30年3月	(仮称)名取市歴民民俗資料館 基本設計
平成31年3月	(仮称)名取市歴民民俗資料館 実施設計
令和元年7月	(仮称)名取市歴民民俗資料館整備工事着手(竣工 令和2年5月15日)
令和3年2月	名取市歴史民俗資料館条例制定
令和3年2月	名取市歴史民俗資料館条例施行規則制定
令和2年5月	名取市歴史民俗資料館開館:5月31日(日)
令和2年5月	第1回企画展示「なとりの王が教える 名取の古墳」(5月31日～9月6日)
令和2年9月	第2回企画展示「山圀古墳のお宝 一時里帰りした名取の至宝」(9月19～12月20日)
令和3年1月	第3回企画展示「令和元年度発掘調査報告展」(1月9日～3月28日)

IV. その他

資料紹介

名取市域の須恵器窯跡

太田 昭夫

1. はじめに

名取市域では須恵器窯跡がこれまで二箇所で見出されている。一つは高館川上地区にある南台窯跡であり、他は愛島塩手地区にある北野窯跡である。前者は分布調査により、後者は民家裏の崖の崩落により発見されたもので、ともにこれまで窯跡本体の調査は行われておらず、詳細については不明な点が多い。ここではそれぞれの窯跡の位置や立地、発見されている須恵器などの概要をまとめ、今後の調査、並びに研究の資料としたい。

2. 窯跡の概要

(1) 窯跡の位置と立地（第1～4図）

両窯跡は名取市西部にあり、JR名取駅のほぼ西方約2.5kmに所在する。名取市の西方には標高100～200mの高館丘陵が南北に連なり、その丘陵からは東に標高30～40mの台地（低丘陵、小丘陵とも称される）が樹枝状に張り出している。窯跡群はその最も北寄りにある台地の縁辺にあり、南台窯跡はやや奥まった谷状地形の東か南斜面（標高約30m）に、北野窯跡は南斜面（標高約20m）にそれぞれ立地している。両窯跡は約200mと近接しており、本来は一連の同一窯跡群として把握される。両窯跡の周辺にはさらに多くの窯跡が埋没している可能性も考えられ、第3図に想定される窯跡群の範囲を網で示している（以下、「北野・南台窯跡群」と呼称する）。その推定される広がりには300m×300mにも及ぶ。

窯跡群が立地する台地は地質学的には高館丘陵の東縁に発達した段丘面の一つで、上部は台の原段丘構成層、下部は竜の口層などが厚く堆積している（第4図 仙台市科学館1985）。台の原段丘は温暖期とされる下末吉期（約12.5万年前）に位置づけられ、礫層や砂層、粘土層から構成される（仙台市1994）。竜の口層は約500万年前に形成されたシルト岩を主体とする海成層で、層中には貝などの動物化石を多く含んでいる（北村ほか1986）。両窯跡ともこの中の台の原段丘構成層の縁辺に位置しており、段丘堆積物である粘土層やその下部の竜の口層のシルト岩などを掘削して窯が構築されたものと推測される（註1）。なお、この台の原段丘面の上層にはオレンジ色をした厚い愛島軽石層がしばしば確認される。この軽石層は川崎町安達付近が噴出源とみられ（蟹沢1985）、8万年前よりさらに古い時期に噴出したことが知られている（宮本ほか2013）。

(2) 南台窯跡（写真図版1—1~4）

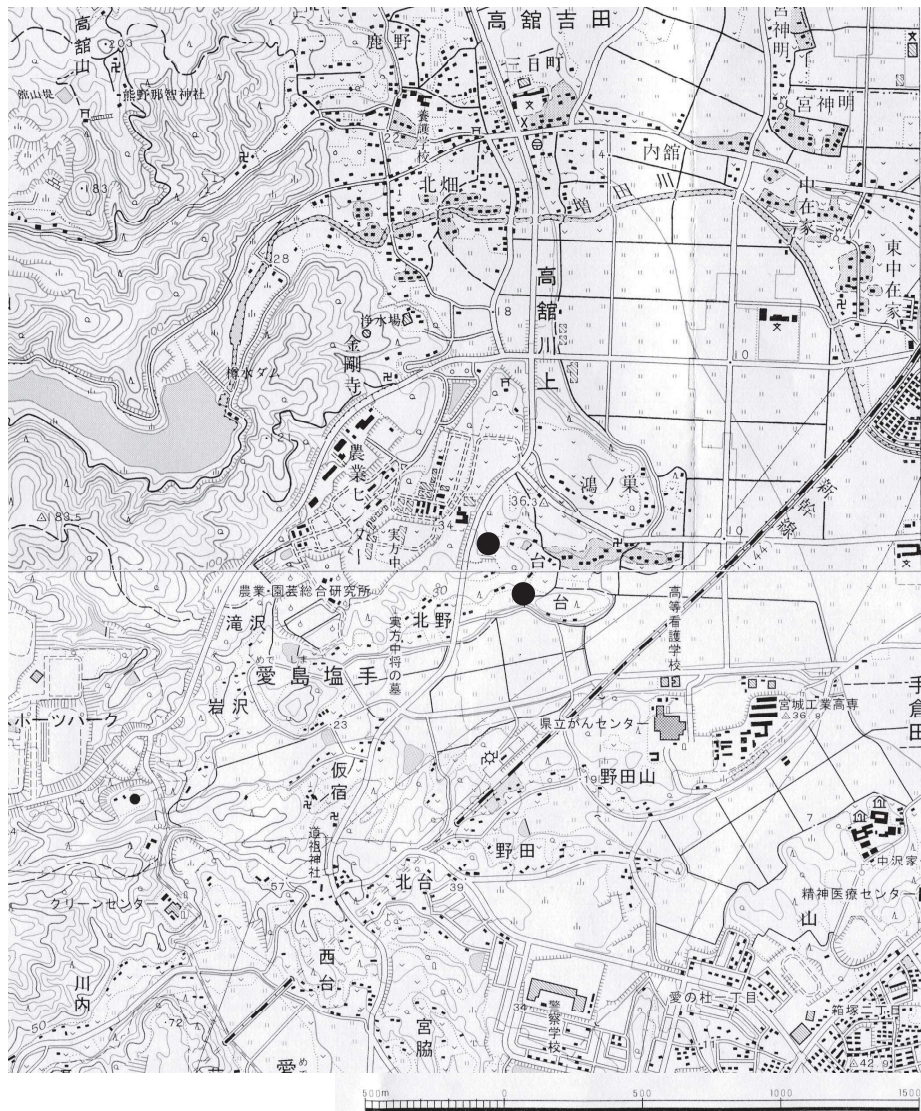
①分布調査時（昭和47年）の採集資料（第5図）

南台窯跡は昭和46年に実施された新幹線関係の遺跡分布調査に関連して翌年の2月に筆者らが発見したもので、その概要についてはすでに紹介している（千葉・太田1973）。所在地は名取市高館川上宇南台57周辺である。訪れたのは宅地造成に伴うとみられる土取り工事が行われた直後で、その際に削平された北側壁面から2基の窯跡と1基の土坑状落ち込みを発見した。壁面の西方には約4mの幅に落ち込みがみられ、右側には土坑状に一段下がる燃焼部とみられる箇所が確認された（写真図版1-3 窯跡1）。この燃焼部は下部の半円形状の壁が被熱により赤化しており、中には木炭や焼土、崩落した窯壁が充填していた。スサ入り粘土も含まれており、これが窯体天井壁に使用された粘土であれば、窯が半地下式の窖（あな）窯構造だったことが推定される。発見時にはこの窯跡の落ち込みが窯本体の縦断面と考え、全長が4m前後の窯体部と推定したが、現在は窯本体の横断面の可能性が高いと考えている。

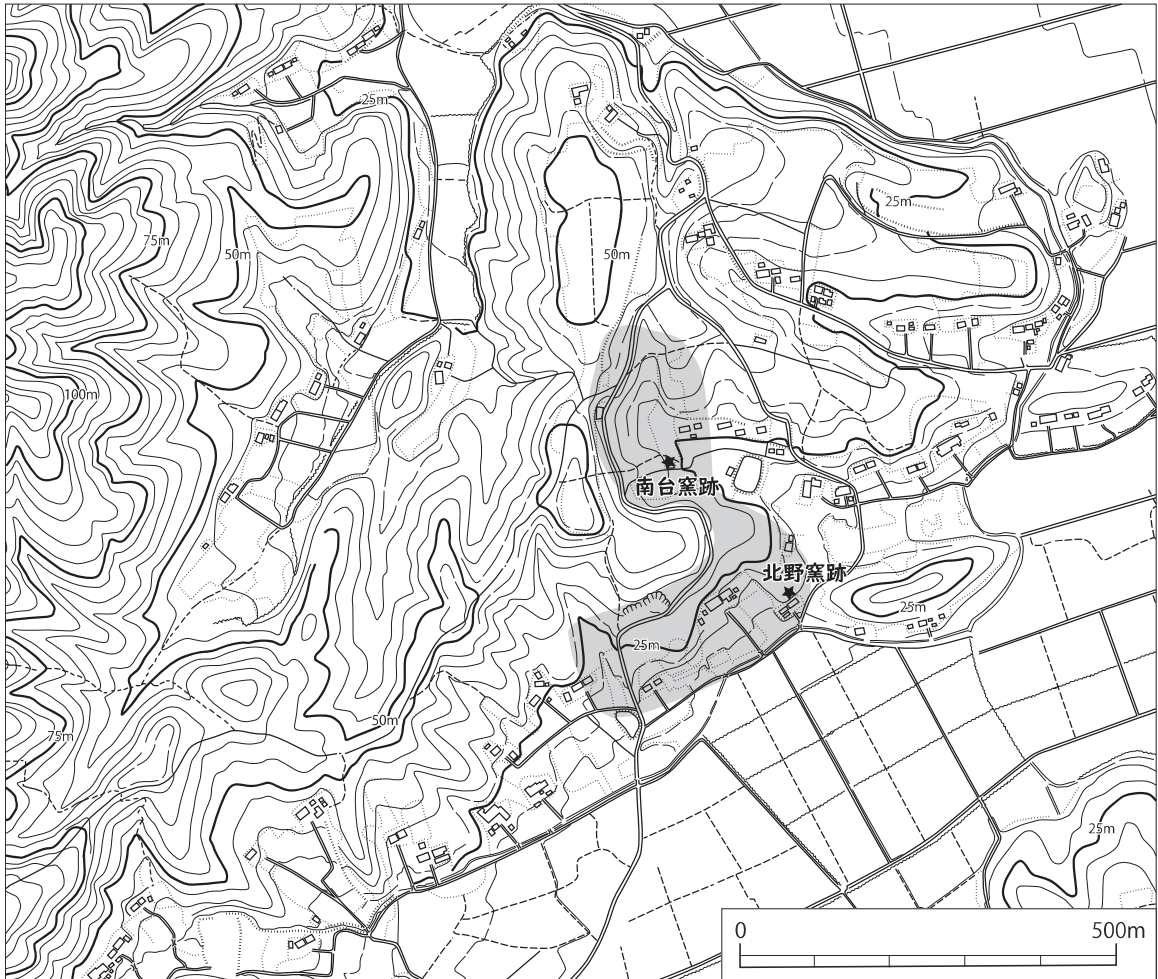
この窯跡のやや東方からは幅1m強の土坑状の窯跡が発見された（写真図版1-4 窯跡2）。これも窯跡1と同様、窯体壁が被熱で赤化していた。さらにその東側から土坑状の落ち込みを1基発見したが、これについては窯跡の一部か窯に伴う付属施設かは不明である。



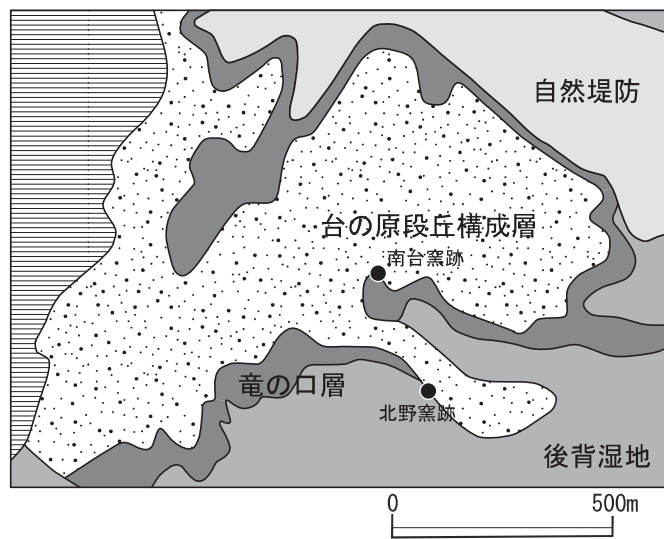
第1図 遺跡の位置
(国土地理院 仙台 200,000 分の 1 を使用)



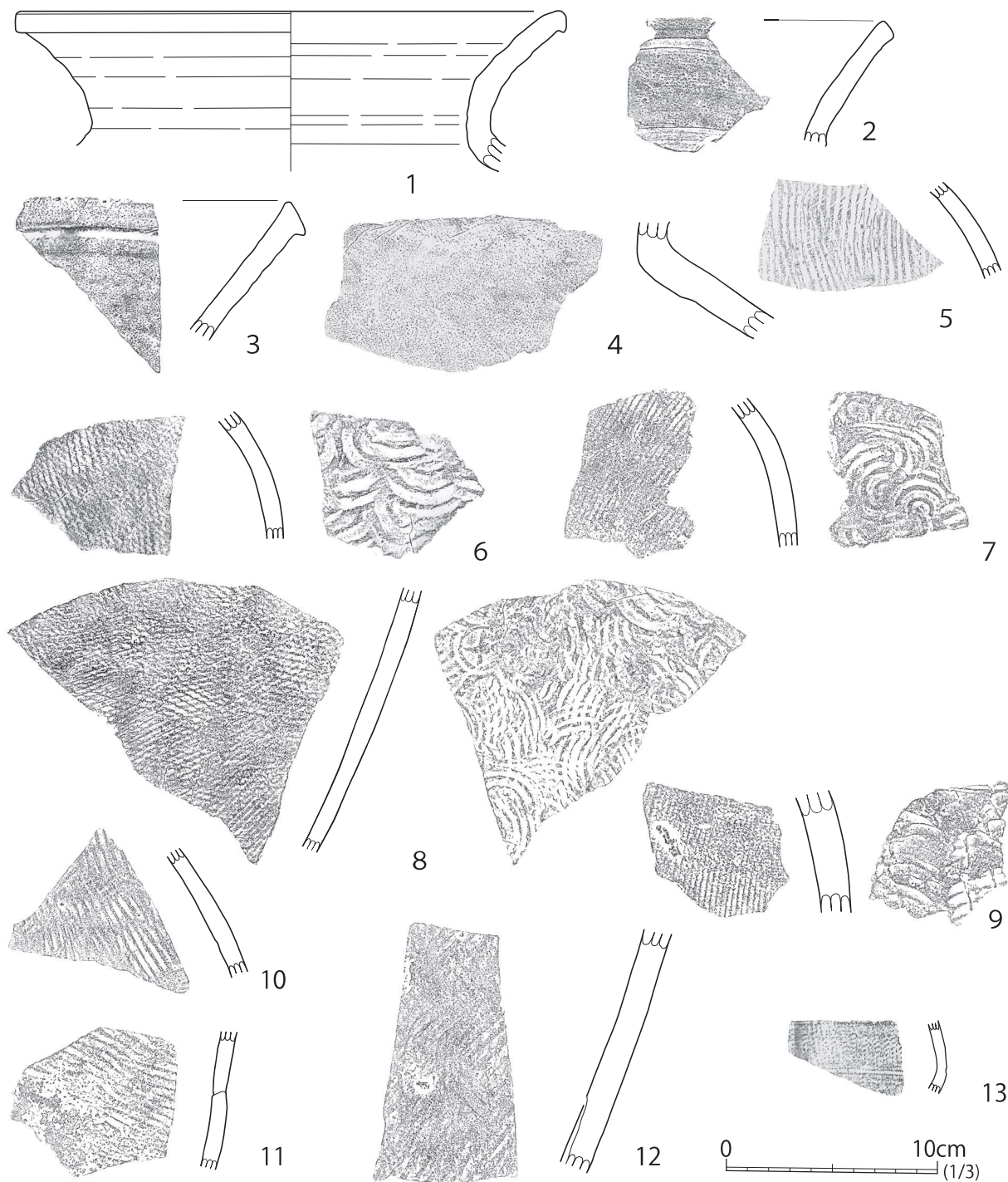
第2図 窯跡の位置 (上が南台窯跡、下が北野窯跡)
(国土地理院 仙台南西部、岩沼 25,000 分の 1 を使用)



第3図 北野窯跡、南台窯跡の位置
 (星印が窯跡が発見された地点 網は推定される窯跡の範囲)



第4図 周辺の地質図 (仙台市科学館 1985から作成)



第5図 南台窯跡出土須恵器(1)

壁面付近からは須恵器破片 27 点、スサ入り粘土片 1 点、窯壁片 2 点が採集された。須恵器破片の多くは甕の破片資料で、複数の異なった個体が数えられる。これらの中の 13 点を第 5 図に示した。1 は推定口径が 26cm 程で、2、3 の甕とともに中甕サイズとみられる。その他の甕の体部は外面が平行タタキ目、内面が同心円文のアテ目が多く観察される。11 は焼け歪みがあり、焼成時に破損したものとみられる。13 は甕の体部破片とみられるもので、外面には沈線間に列点文が施されている。なお、この資料は現在行方不明となっており、ここでは以前に紹介した図を再掲載している。これは体部に楕歯状工具による刺突文をもち、器厚の薄いことも加え、甕の可能性が考えられる。

これら須恵器の胎土には、量には多寡があるが海綿骨針（註 2）が含まれている。また焼成・色調では焼成が不完全で赤褐色を呈するもの（6）もあるが、多くは固く焼き締まり黒色・灰色・灰白色を呈している。

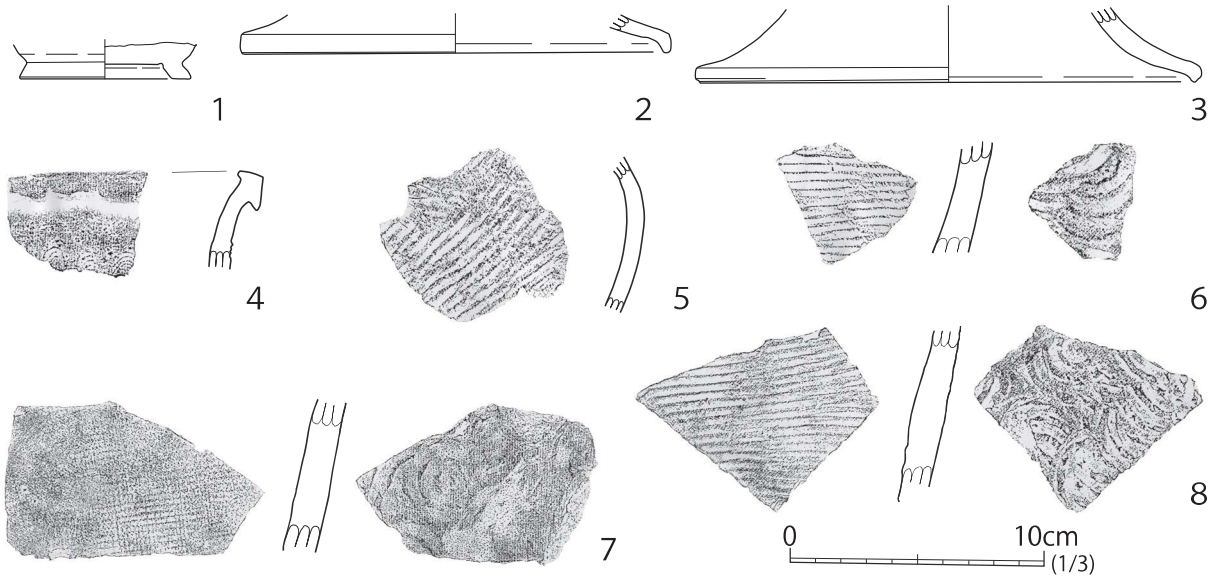
以上の南台窯跡採集の須恵器については量が少なく、また窯本体の調査が行われておらず、窯の時期

についてはまだ不明な点が多い。憶測ではあるが、須恵器については甕の形態や内面に同心円文のアテ具痕をもつことなどの製作技法などから、8世紀代の時期のものと推定される。したがって窯は大まかに奈良時代頃に操業されたものと推定されるが、7世紀代に遡る可能性をもつ礎とみられる資料が存在することから、操業開始時期がさらに遡ることも考えられる。

②個人住宅建設に伴う調査（平成27年）資料（第6図）

前述の分布調査で発見された窯跡から東に20m下った箇所が、個人住宅建設に伴い調査されている。近接地ということで灰原や工房などの窯跡に関連した遺構の存在が想定されたが、ピット以外に明確な遺構は確認されなかった（名取市教委2016）。

層中からは須恵器破片39点、スサ入り粘土などが出土し、その中の8点の須恵器を第6図に再掲載した。器種には高台坏、蓋、甕があり、高台坏の高台部形状や蓋の内面にカエリをもたないなどの形態や製作技法の特徴などから、①の窯跡採集の須恵器とほぼ同じ8世紀代のものと推定される。



南台窯跡出土須恵器観察表

図番号	器種	外 面	内 面	備 考	残 存	法 量	写真番号
第5図1	甕	ロクロナデ	ロクロナデ	海綿骨針わずかに含む	口縁部1/4	推定口径 26cm	写真図版2-1
第5図2	甕	ロクロナデ	ロクロナデ	海綿骨針多く含む	口縁部破片		写真図版2-2
第5図3	甕?	ロクロナデ	ロクロナデ	海綿骨針わずかに含む	口縁部破片		写真図版2-3
第5図4	甕	ロクロナデ	ヘラナデ・ロクロナデ	海綿骨針わずかに含む	体部破片		写真図版2-4
第5図5	甕	平行タタキ目	ロクロナデ	海綿骨針わずかに含む。内外面一部に自然釉掛かる。	体部破片		
第5図6	甕	格子状タタキ目	同心円文アテ目	海綿骨針わずかに含む。不完全施成。	体部破片		写真図版2-5
第5図7	甕	平行タタキ目	同心円文アテ目	海綿骨針含む	体部破片		
第5図8	甕	格子状タタキ目	同心円文アテ目	海綿骨針含む	体部破片		写真図版2-6
第5図9	甕	平行タタキ目(木目直交)	同心円文アテ目	海綿骨針わずかに含む	体部破片		
第5図10	甕	平行タタキ目	ナデ?	海綿骨針含む	体部破片		
第5図11	甕	平行タタキ目(木目直交)	ナデ?	海綿骨針含む。焼成時に破損。融解物付着。	体部破片		写真図版2-7
第5図12	甕?	平行タタキ目	ナデ	海綿骨針わずかに含む	体部破片		
第5図13	礎	沈線間に刺突文			体部破片		
第6図1	高台坏	ロクロナデ。底部切り離しは糸切り(回転か静止か不明)、その後ナデ。	ロクロナデ	海綿骨針多く含む	高台部1/4	推定底径 6.8cm	
第6図2	蓋	ロクロナデ	ロクロナデ	海綿骨針わずかに含む	口縁部1/10	推定口径 17.2cm	
第6図3	蓋	ロクロナデ	ロクロナデ	海綿骨針多く含む	口縁部1/12	推定口径 20.2cm	
第6図4	甕	ロクロナデ、波状文	ロクロナデ	海綿骨針わずかに含む	口縁部破片		
第6図5	甕	平行タタキ目	ロクロナデ	海綿骨針わずかに含む	体部破片		
第6図6	甕	平行タタキ目(木目斜行)	同心円文アテ目	海綿骨針わずかに含む	体部破片		
第6図7	甕	平行タタキ目(木目直交)	同心円文アテ目	海綿骨針わずかに含む	体部破片		
第6図8	甕	平行タタキ目	同心円文アテ目	海綿骨針わずかに含む	体部破片		

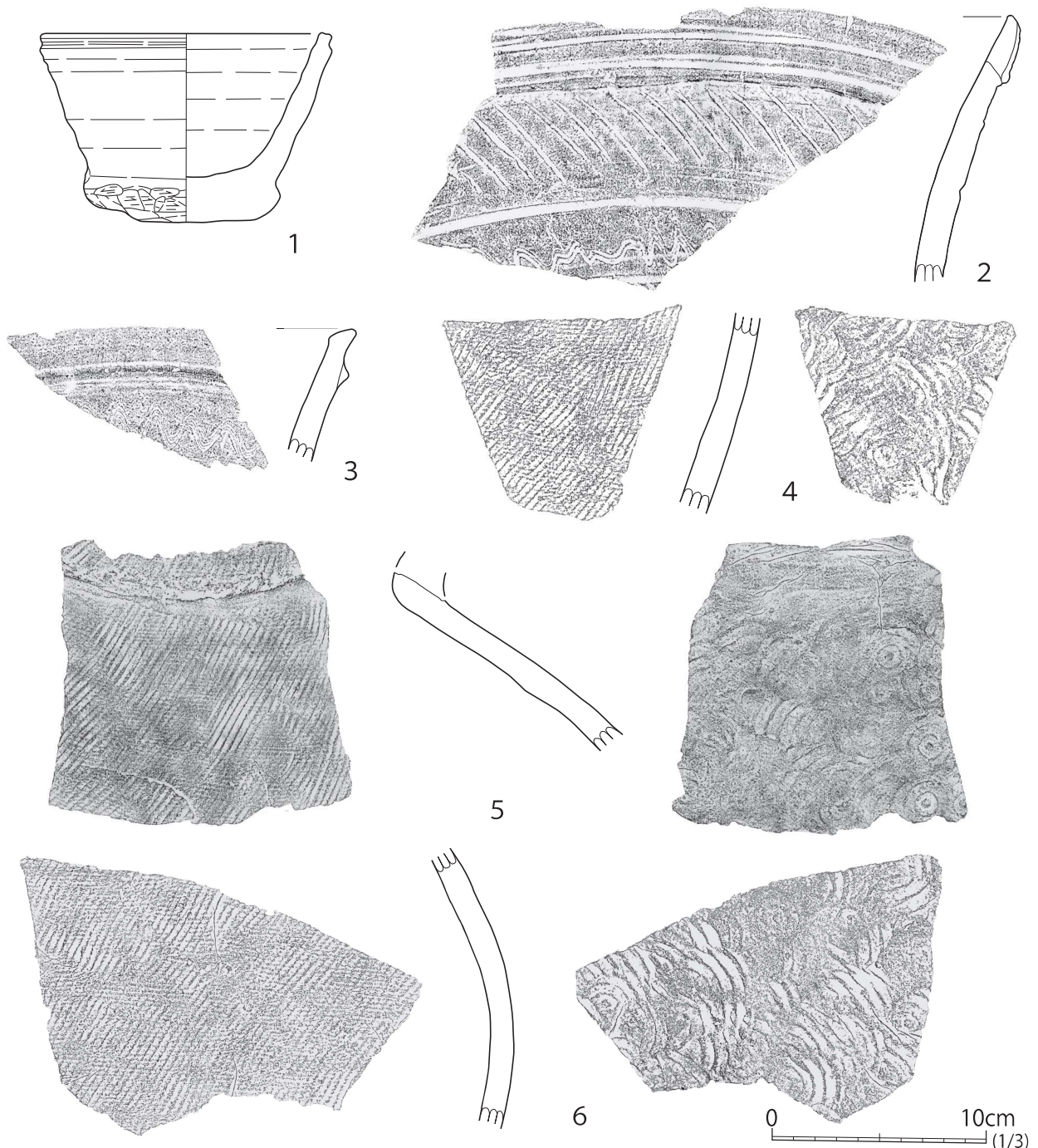
第6図 南台窯跡出土須恵器(2)

(3) 北野窯跡 (第7・8図 写真図版1—5~8)

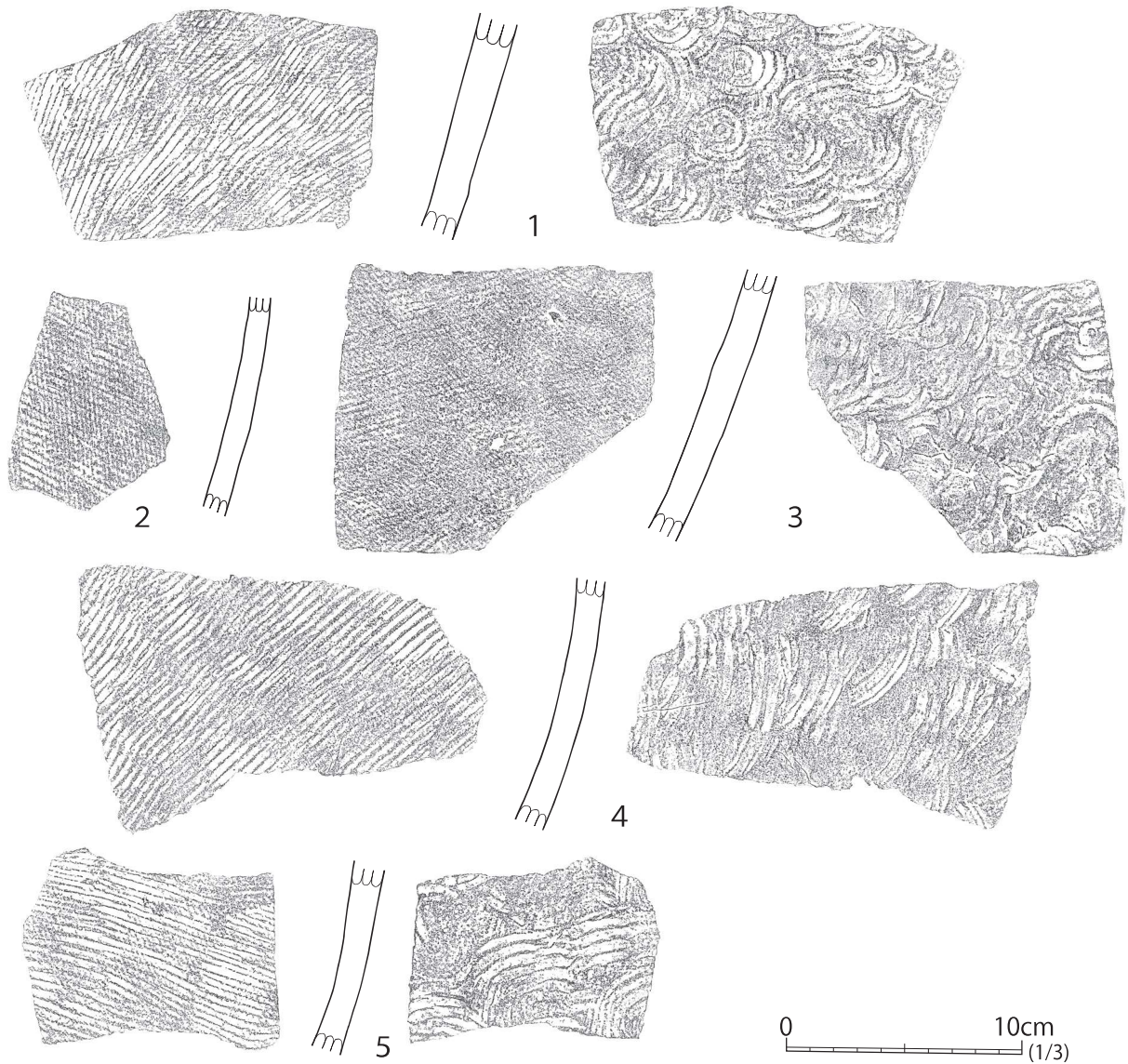
昭和61年8月に起きた集中豪雨により塩手字北野に所在する民家の裏山が崩落し、壁面から窯跡が数基発見された(註3)。その時にテン箱1個分の須恵器破片が名取市教育委員会により採集されている。また以前にこの窯跡から発見されている須恵器摺鉢1点がある。これは窯跡が発見された土地所有者の板橋久子氏が所蔵するものである。所在地は名取市愛島塩手字北野136である。窯跡の現在の状況では崖面中位に窯跡は2基か3基確認でき、いずれも横断面とみられる遺構が露出している。本来は南側から北方向に掘削し、窯を構築したものとみられる。その中の2基(窯跡1・2)は窯壁が被熱による赤化している。

採集されている資料は須恵器の摺鉢1点と大型の甕破片33点である。甕破片の中には同一個体とみられる資料も多く含まれている。これら資料の11点を第7・8図に示した。

第7図1は完存する摺鉢で、底部がやや丸底ぎみで側面がわずかに横に突き出し、体部から口縁部にかけて直線的に開くものである。器厚が厚く、形が幾分歪んでおり、底面に凹凸がみられるなど、作り



第7図 北野窯跡出土須恵器(1)



北野窯跡出土須恵器観察表

図番号	器種	外 面	内 面	備 考	残 存	法 量	写真番号
第7図1	摺鉢	ロクロナデ。底部はヘラケズリ。底面にワラ状圧痕あり。	ロクロナデ	海綿骨針多く含む。底部に亀裂がみられる。	完存	口径13.6cm、底径9.2cm、器高8.8cm	写真図版2-8
第7図2	甕	ロクロナデ。沈線、斜線文、波状文。	ロクロナデ	海綿骨針わずかに含む	口縁部破片	推定口径 60.6cm	写真図版2-9
第7図3	甕	ロクロナデ。波状文。	ロクロナデ	海綿骨針多く含む	口縁部破片		写真図版2-10
第7図4	甕	平行タタキ目(木目斜行)	同心円文アテ目	海綿骨針多く含む。3と同一個体。	体部破片		写真図版2-11
第7図5	甕	平行タタキ目(木目斜行)。口縁部との接合面にもタタキ目あり。	同心円文アテ目	海綿骨針多く含む	体部破片		写真図版2-12
第7図6	甕	平行タタキ目(木目斜行)	同心円文アテ目	海綿骨針多く含む。3と同一個体。	体部破片		写真図版3-1
第8図1	甕	平行タタキ目(木目斜行)	同心円文アテ目	海綿骨針多く含む。第 図3と同一個体。	体部破片		写真図版3-2
第8図2	甕	平行タタキ目(木目斜行)	同心円文アテ目	海綿骨針多く含む	体部破片		
第8図3	甕	平行タタキ目(木目斜行)	同心円文アテ目	海綿骨針多く含む	体部破片		写真図版3-3
第8図4	甕	平行タタキ目(木目直交)	同心円文アテ目	海綿骨針多く含む	体部破片		写真図版3-4
第8図5	甕	平行タタキ目(木目斜行)	同心円文アテ目	海綿骨針多く含む	体部破片		写真図版3-5

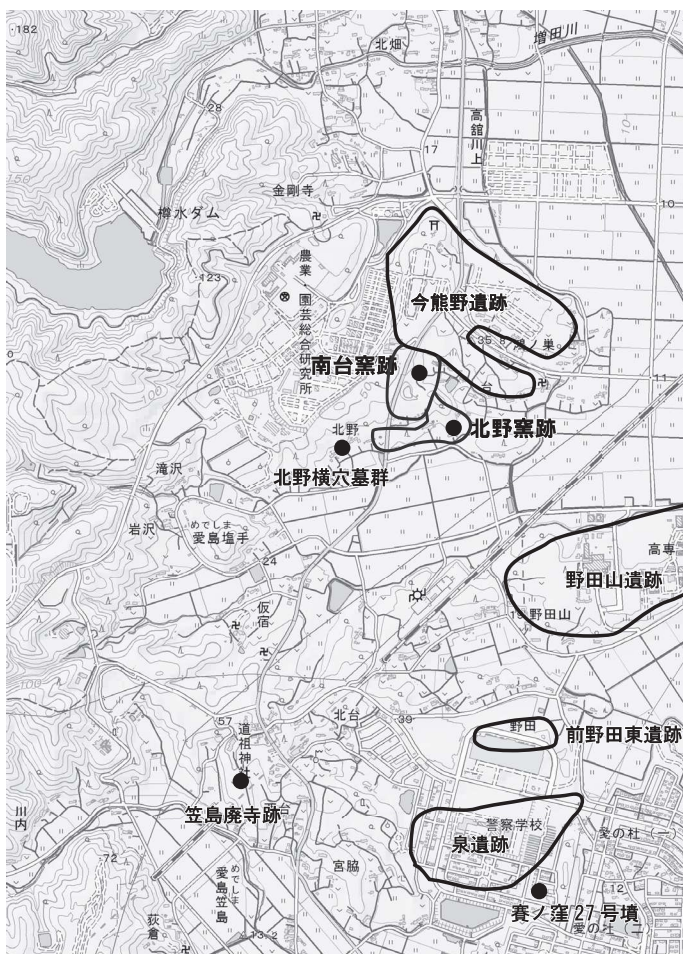
第 8 図 北野窯跡出土須恵器 (2)

が雑な印象を受ける。口縁部に一条の凹線を巡らし、内外面ロクロで整形されている。その後にワラ状の上で乾燥させヘラケズリを加えて仕上げたものと考えられる。第7図2は推定口径が60cm程の大甕の口縁部で、外面には数条の沈線と斜線文、波状文が施されている。斜線文は幅1.5mm、深さ1.5mm程の線を篋描きにより、波状文は3本以上の櫛歯状工具により、それぞれ施されている。口縁端部は粘土の貼り付けによりやや肥厚し、胎土には海綿骨針をわずかに含む。内面には焼成時の付着物がみられる。第7図3も口縁部に波状文が施されている。口縁部上面がほぼ水平で、口縁部に粘土を貼り付けている。胎土には海綿骨針を多く含む。第7図4～6、第8図1は同一個体とみられる大甕の体部破片で、外面

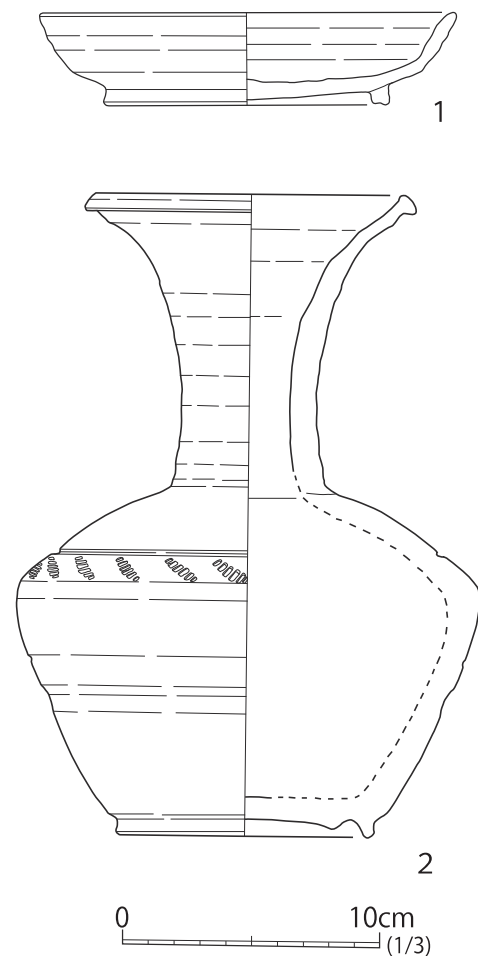
には木目斜行の平行タタキ目、内面には同心円文のアテ目の痕跡が明瞭に残る。その中の第7図5は口縁部から剥離した部分にも平行タタキ目が確認され、口縁部接合前に乾燥時間を設けた工程が伺われる。これらの胎土には海綿骨針が多量に含まれている。このような海綿骨針の多量の含まれ方は第8図2～5でも同様である。以上の須恵器の色調には灰色の他に、褐灰色やにぶい赤褐色、にぶい橙色などの赤焼けも多く含まれている。しかし南台窯跡資料と比較すると、甕は製作技術が優れ、胎土は堅緻で焼成が良好である印象が強い。

北野窯跡から発見された第7図1の摺鉢の類例には、周辺では仙台市郡山遺跡第147次調査のSX-2093(仙台市教委 2003)、仙台市長町駅東遺跡1・2次調査のSI38(仙台市教委 2008)、同じ長町駅東遺跡3次調査のSD66(仙台市教委 2009)、名取市清水遺跡の第10号溝(宮城県教委 1981)などから出土している摺鉢がある。これらの中で形態的にもっとも類似するのが郡山遺跡第147次調査のSX2093の摺鉢であり(註4)、これは7世紀中葉頃に造営されたと考えられているI期官衙に伴ったものである。第7図2については昨年、名取市上余田遺跡から出土した斜線文をもつ須恵器甕の類例として取り上げられており(名取市教委 2020)、ここでは斜線文をもつこれらの資料を7世紀代に位置づけられている。このような斜線文と波状文をもつ大甕については佐藤 渉氏の最近の研究があり、北関東から東北南部の古墳時代後期～終末期の遺跡で出土し、時期については6世紀末～8世紀初頭であること、この文様をもつ大甕が下野南部で成立し、6世紀末から7世紀前半にかけて東北南部に伝播した可能性があることなどが指摘されている(佐藤 2020)。その類例として本資料を実見された佐藤氏からは、形態や文様の特徴から7世紀の中頃(飛鳥Iの新段階～飛鳥II段階)の時期のものではないかというコメントを頂いている。

第7図3のような波状文をもち、口縁部上部が水平な特徴をもつ須恵器甕の類例には仙台市土手内窯跡出土の須恵器甕などがあげられる。土手内窯跡は7世紀第2四半期から中葉を中心とした実年代が考



第9図 窯跡周辺の関連遺跡分布図
(『国土地理院 電子地形図 25000』から作成)



第10図 北野横穴墓群出土の須恵器

えられており、この資料も前述の第7図2とほぼ同じ時期に位置づけられる。

以上から北野窯跡についても資料的には極めて数少なく確定はできないが、遅くとも7世紀中葉には窯の操業を開始していた可能性が考えられる。

3. 窯跡を取り巻く歴史環境

前項で述べたように、南台窯跡は8世紀頃の時期に、北野窯跡は7世紀中頃に操業時期が推定された。

ここでは両窯跡を含む北野・南台窯跡群が7世紀中葉から8世紀代に須恵器生産が行われていたことを想定し、この時期の周辺の歴史環境について概観しておく(第9図)。

周辺のこの時期の集落跡には北に隣接して所在する今熊野遺跡、約1km南に所在する野田山遺跡、約1.5～2km南に所在する前野田東遺跡、泉遺跡がある。今熊野遺跡では北台地区、鴻ノ巣地区合わせて10軒前後の竪穴住居跡が検出されており、この中の半数程は7世紀後半から8世紀前葉のものである(宮城県教委1985)。野田山遺跡からは7世紀後葉から8世紀前葉頃の竪穴住居跡が1軒検出されている(宮城県教委1992)。また前野田東遺跡、泉遺跡からも8世紀前半頃の竪穴住居跡が1～2軒検出されている(名取市教委2010)。

周辺のこの時期の古墳や横穴墓群には北野窯跡から西約300mに北野横穴墓群、南約1.5kmに賽ノ窪27号墳が所在する。北野横穴墓群は未調査であり、詳細は不明である。現在は2基が開口している。以前に所有者から当横穴墓から発見された須恵器が2点寄贈されており、この2点を第10図に示した。1は高台坏で、底部から緩やかに立ち上がり口縁部で外傾する器形のものである。底部は回転ヘラケズリで全面再調整されている。2は長頸瓶で、体部は肩が張り、頸部から口縁部にかけて外反して開く器形である。口縁部の下には軽い段をもち、体部の肩には一条の沈線と刺突文が巡っている。外面底部には藁状の圧痕が観察され、また胎土には海綿骨針が多く含まれている。これら2点とも形態的な特徴や製作技法などから8世紀前葉頃のものとして推定され、横穴墓群が使用されたある期間を示すものと考えられる。賽ノ窪27号墳は径が26m、高さ4mの円墳で、主体部は両袖式の横穴式石室である。出土遺物などから7世紀中頃に築造され、8世紀前半まで使用された古墳と考えられている(名取市教委2010)。

その他に南西約1.5kmに笠島廃寺跡が所在する。塔跡とみられる遺構の存在や瓦が出土することなどから、多賀城廃寺跡と同様の伽藍配置をもつ私寺的な性格をもつものとされているが、年代も含め詳細については不明な点が多い(加藤1951)。

以上のように窯跡周辺には同時期の遺跡が点在している。これらの遺跡群は全く無関係に存在していたとは考えにくく、この時期に須恵器生産を含めた相互の関連性が伺われる。とりわけ窯跡に距離的に近い今熊野遺跡や北野横穴墓群については窯跡群に関わる集落、墓の可能性も考えられるが、今後の課題としておきたい。

4. まとめ

名取市域を含めた旧名取郡域には7～8世紀の遺跡が数多く分布している。名取川以北では城柵や陸奥国府とされている官衙遺跡の仙台市郡山遺跡をはじめとする遺跡群、その西方の丘陵斜面に造営された官衙に関わるとされている多くの横穴墓群などがある。また名取市域の平野部には清水遺跡や上余田遺跡など数多くの集落跡が分布し、岩沼市域には最近、駅家や割の可能性が考えられてきた原遺跡、その墓域だった可能性がある横穴墓群がある。こうした遺跡からは一定量の須恵器が出土しており、以前から付近の丘陵部にこれらを生産する須恵器生産の窯跡の存在が推測されてきた。

これまで旧名取郡域では仙台市西多賀地区の土手内窯跡(仙台市教委1992)など、長町一利府構造線に沿う青葉山丘陵の南裾部で生産窯跡が発見されていたが、加えて名取市域西方の台地崖面でも広く須恵器生産が行われていたことが明らかになった。前述したように南台窯跡、北野窯跡ともこれまで正式な調査は行われておらず、それぞれ数基の窯跡が確認され、時期については7世紀中頃や8世紀頃に操業が行われていたことが推定されただけで、詳しい情報については今後に待たなければならない。ただし、特に北野窯跡では7世紀中頃には操業が開始されていること、郡山遺跡I期官衙に伴う摺鉢と類似する摺鉢がみられることなどから、仙台市土手内窯跡と同じく郡山遺跡I期官衙と関連して操業を開始

した窯の可能性が考えられる。

なお、名取市域から岩沼市域の西方には同様の台の原段丘構成層、竜の口層から成る台地が点々と分布しており、これらの地域でもこれから窯跡が発見される可能性を秘めている。今後は須恵器窯跡だけでなく瓦窯跡、埴輪窯跡も視野に入れ、さらに探索に努めていきたいと考えている。

最後に、本報文をまとめるにあたり下記の方々より貴重なご教示をいただいた。また板橋久子氏には大切にされていた資料をお貸しいただき、また仙台市教育委員会には関連資料の調査をさせていただいた。記して厚く感謝申し上げます。

石本 弘氏、板橋久子氏、恵美昌之氏、小川淳一氏、川又隆央氏、佐藤敏幸氏、佐藤 渉氏、村田晃一氏、仙台市教育委員会

註1 今年2月に行われた今熊野遺跡北縁辺の崖面の調査で、下部には竜の口層とみられるよく締まった砂岩やシルト岩、凝灰岩などが堆積し、その上部に台の原段丘相当層とみられる礫層、粘土層などが不整合に覆っている状況が観察されている。

註2 海綿骨針は海綿動物が体内にもつ骨格であり、焼成により白色化するとされている。土師器や須恵器などに含まれるこの骨針の分析により、素地土の採取地を推定する研究も進められている。

註3 名取市史には、北野の民家が家屋新築した際に裏山を崩した所、須恵器の窯跡が発見されたことが記されている（名取市1977）。昭和61年に発見された窯跡と同一の窯跡と考えられる。

註4 仙台市教育委員会のご厚意で、挿鉢を実見させていただいた。北野窯跡の挿鉢と比較し、器高が低く体部から口縁部にかけて直線的に開くこと、底部が丸底で分厚いこと、胎土には多く海綿骨針が含まれることなど共通する点も多いが、口縁部の凹線や突帯の状況、作りが北野窯跡例より丁寧であることなどの相違点もあり、郡山遺跡例が北野窯跡の製品かどうかは確定できなかった。

【引用・参考文献】

加藤 孝(1951):「宮城県名取郡笠島廃寺跡」『日本考古学年報4』日本考古学協会

蟹沢聰史(1985):「仙台市および周辺に分布する愛島軽石とその中の深成岩質岩片について」『岩石鉱物鉱床学会誌』80

北村 信ほか(1986):『仙台地域の地質』地質調査所

佐藤 渉(2020):「波状文と斜線文をもつ大甕 ー北関東と東北南部の須恵器生産ー」『土曜考古』第42号 土曜考古学研究会

仙台市(1994):『仙台市史 特別編1 自然』仙台市史編さん委員会

仙台市科学館(1985):『仙台市地質図』

仙台市教育委員会(1992):『土手内 ー土手内遺跡・土手内窯跡・土手内横穴B地点発掘調査報告書ー』仙台市文化財調査報告書第165集

仙台市教育委員会(2005):『宮城県仙台市郡山遺跡発掘調査報告書ー総括編(1)ー』仙台市文化財調査報告書第283集

仙台市教育委員会(2008):『長町駅東第1・2次調査ー仙台市あすと長町土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書II』仙台市文化財調査報告書第324集

仙台市教育委員会(2009):『長町駅東第3次調査ー仙台市あすと長町土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書III』仙台市文化財調査報告書第340集

千葉宗久・太田昭夫(1973):「名取市高館箕輪南台須恵窯跡について」『宮教考古』第5号

名取市教育委員会(2010):『宮城県名取市 泉・前野田東・北台遺跡他 発掘調査報告書 第1分冊・第2分冊』名取市文化財調査報告書第59集

名取市教育委員会(2016):「II 4-1 南台窯跡」『宮城県名取市 震災復興事業関連発掘調査報告書』名取市文化財調査報告書第65集

名取市教育委員会(2020):「II 6 上余田遺跡 第3調査地」『平成30年度 名取市内遺跡発掘調査報告書』名取市文化財調査報告書第73集

宮城県教育委員会(1981):「(I) 清水遺跡」『東北新幹線関係遺跡調査報告書ーVー』宮城県文化財調査報告書第77集

宮城県教育委員会(1985):『今熊野遺跡 一本杉遺跡 馬越石塚』宮城県文化財調査報告書第104集

宮城県教育委員会(1992):『野田山遺跡』宮城県文化財調査報告書第145集

宮本 毅ほか(2013):「仙台の大地の成り立ちを知る」『地質学雑誌』第119巻 補遺



1 南台窯跡遠景(東から)○が窯跡の位置



2 南台窯跡近景(東から)中央の壁面で窯跡確認



3 壁面で確認された窯跡1(南から)



4 壁面で確認された窯跡2(南から)



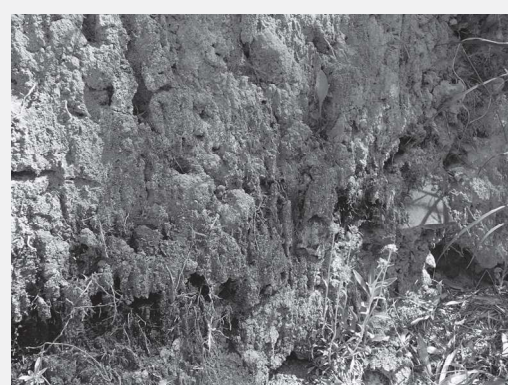
5 北野窯跡遠景(南から)○が窯跡の位置



6 北野窯跡の現状(東から)壁面で窯跡確認



7 壁面で確認された窯跡1(南から)



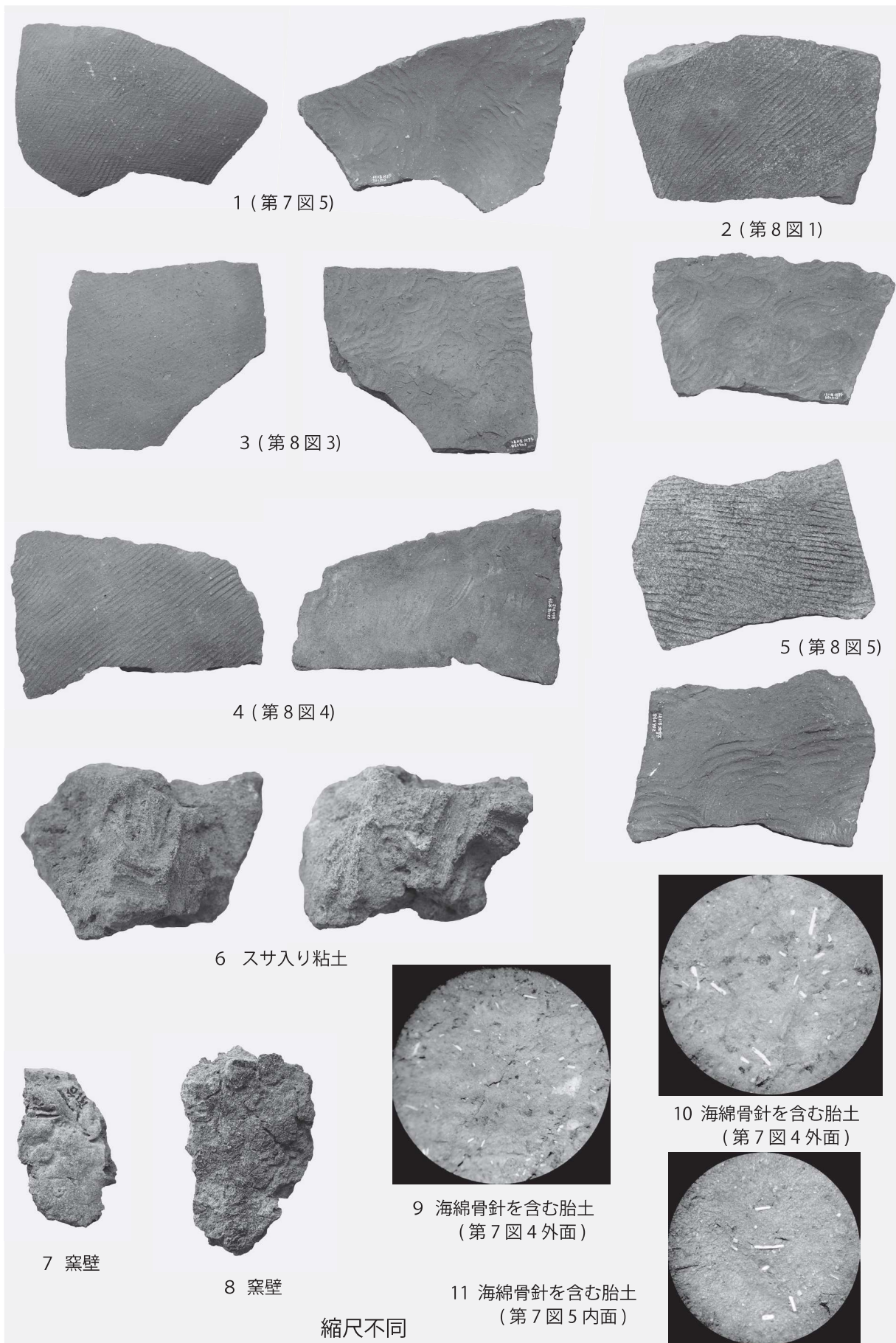
8 壁面で確認された窯跡2(南から)

写真図版1 南台窯跡(1~4)、北野窯跡(5~8)



縮尺不同

写真図版2 南台窯跡(1~7)、北野窯跡(8~12)の須恵器



写真図版3 北野窯跡(1~5、10~12)の須恵器、南台窯跡(6~9)窯体資料

名取市歴史民俗資料館年報
—令和2年度—

発行：名取市歴史民俗資料館
〒981-1224
宮城県名取市増田一丁目7-37
TEL022-724-7935/Fax022-724-7936
URL:<https://natori-shiryokan.jp/>

発行日：令和3年3月31日

印刷：有限会社さとう印刷
〒981-1241
宮城県名取市高館熊野堂字余方下5-3

